

平成22年度 津市まちづくりレポート



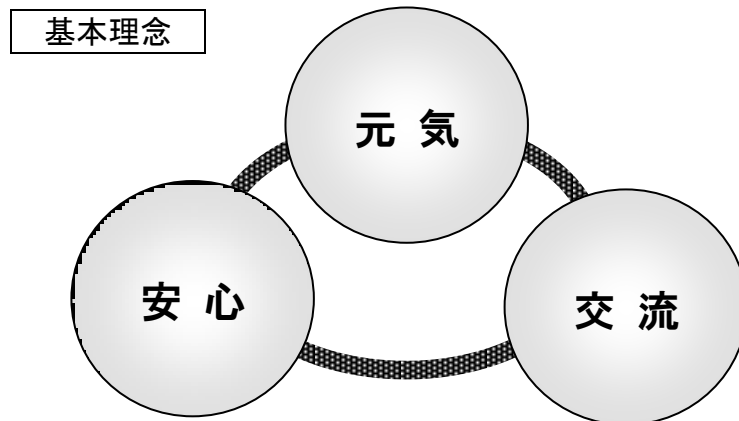
平成22年7月
津市



はじめに	1
各プログラムの取組状況	
1 まちづくり戦略プログラム	
①未来を拓く都市空間形成プログラム	3
②自然の恵みの価値創造プログラム	11
③海に開くまちづくりプログラム	17
④持続可能な地域形成プログラム	22
⑤歴史と文化の拠点形成プログラム	26
⑥健康とスポーツの振興プログラム	31
2 元気づくりプログラム	
①住みやすさ向上プログラム	35
②元気な人づくりプログラム	38
③若者定住プログラム	41
④交流による活力創造プログラム	44
⑤津らしさ実感プログラム	50
3 地域かがやきプログラム	
①東部エリア～キラリと輝く人づくり・まちづくり～.....	55
②北部エリア～都市や自然と共存するふれあいの里づくり～.....	67
③中部エリア～“みのり”と“ぬくもり”の郷（さと）づくり～.....	73
④南部エリア～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～.....	79

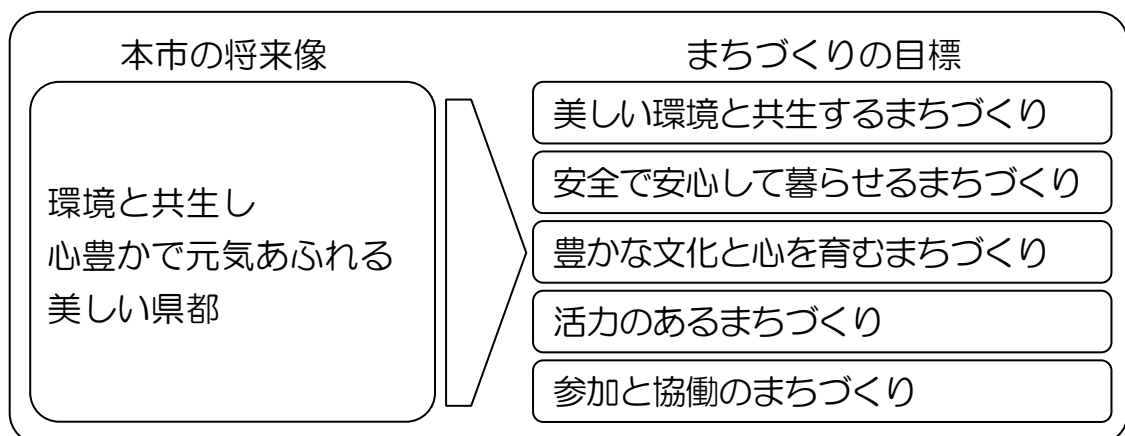
はじめに

津市は、平成 20 年 3 月、本市にとって初めての総合計画を策定しました。総合計画においては、「住みやすさ」と「人と人とのつながり」を大切にしつつ、「安心」、「交流」、「元気」の 3 つの基本理念のもと、将来像を「環境と共生し、心豊かで元気あふれる美しい県都」と定め、まちづくりを進めています。

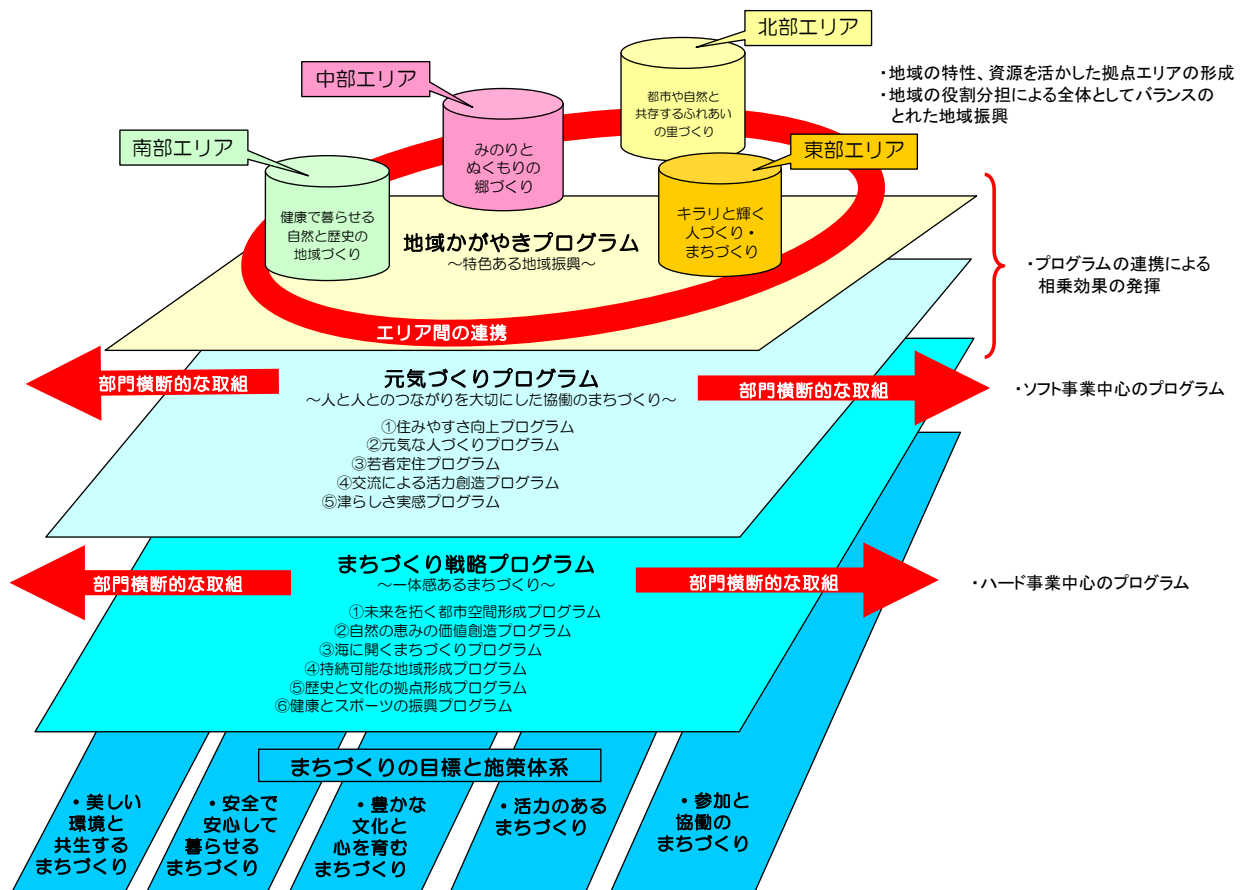


まちづくりの目標と重点プログラムの編成

総合計画では、5 つのまちづくりの目標（美しい環境と共生するまちづくり、安全で安心して暮らせるまちづくり、豊かな文化と心を育むまちづくり、活力のあるまちづくり、参加と協働のまちづくり）を掲げるとともに、総合計画に基づくまちづくりを戦略的かつ重点的に推進するために、3 つの重点プログラム（まちづくり戦略プログラム、元気づくりプログラム、地域かがやきプログラム）を編成しています。



<重点プログラムの体系>



重点プログラムとは

国、地方を通じた厳しい財政状況の下で、総合計画の将来像を実現していくためには、事業そのものを目的化せず、事業の目的を市民生活の様々な局面からとらえ、まちづくりとして戦略的かつ重点的に推進していくことが必要です。

重点プログラムは、まちづくりの施策体系に基づく事業を効果的に組み合わせ、その一体的、総合的な推進に取り組むためのプログラムです。

まちづくりレポートとは

市では、各重点プログラムに位置付けられた施策の内容ごとに、進行管理と評価を行う「政策評価」を行っています。この政策評価を基に、事業の取組実績や今後の取組を分かりやすく公表するため、「まちづくりレポート」としてとりまとめました。

今回初めて作成したまちづくりレポートは、総合計画前期基本計画における目標に対して、平成 20・21 年度の 2 力年の取組実績及び今後の取組をまとめた内容としており、今後も毎年作成する予定です。

1 まちづくり戦略プログラム

①未来を拓く都市空間形成プログラム

1 新都心軸の形成

(1) 都市核（津城跡周辺地区の整備と活用）の整備

（スポーツ文化振興部、商工観光部、教育委員会）

前期基本計画における目標

- ・多様な交流の拠点として、都市核の中心を担う津城跡（お城公園）及びその周辺地区については、藤堂高虎公入府 400 年記念に関連する事業を実施するとともに、高虎公にゆかりのある自治体との歴史的つながりを大切に交流を進めるなど、これを契機とした藤堂高虎公を活用したまちづくりを進め、魅力的な都市空間の創造を図ります。
- ・津城の城跡としての価値を明確にし、次世代に伝えていくため、保存管理計画の策定のもと、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・市民の機運の高まりを踏まえつつ、津城跡の復元について、調査研究に取り組みます。
- ・中心市街地の空き店舗や空き地等を活用し、大学生や短大生の活動スペースを設けるなど、若い力を活かしたまちづくりに取り組むとともに、市民が集まり、賑わいが創出できるよう、歴史・文化的機能など公共公益施設の誘導を図ります。
- ・国道 23 号等において歩道のバリアフリー化や憩いの場等の道路環境の整備を促進するとともに、あんしん歩行エリアの形成に向けた取組を支援します。

(2) 津なぎさまちの整備

（都市計画部）

前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。

(3) 新たな連携と交流を創出する新産業交流拠点の形成への取組

（都市計画部、商工観光部）

前期基本計画における目標

- ・近畿自動車道伊勢線津インターチェンジ周辺地区においては、県都としての活性化を牽引し、本市の求心力をさらに高める観点から、中心市街地の活性化に寄与し、津なぎさまちを中心とするみなとまちづくりと連動した新都心軸の形成を図るため、本市の玄関口として圏域内外との交流を展開する新たな産業交流拠点機能の形成をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 藤堂高虎公入府 400 年記念事業として、記念講演会や 400 人茶会、市民薪能、街道ウォークなど計 65 事業を開催し、のべ 95 万人の参加がありました。
- ・ 藤堂高虎公啓発事業として、高虎公を顕彰する各ボランティア団体との案内所の設置に向けた協議をはじめ、周遊コースづくり・情報交換などを目的とした勉強会・講演会を実施しました。
- ・ 藤堂高虎公ゆかりの地において隔年で開催される「高虎サミット in 津」を、平成 20 年 11 月 4 日に津市内で開催し、ゆかりの地との交流による魅力的で個性豊かなまちづくりについての取組紹介や意見交換などを行いました。
- ・ 平成 20 年度に案内所「シロモチくんの館」を開設し、藤堂高虎公及び津城に関する情報発信をはじめ、関連イベント等との連携により、2,365 人の来館者がありました。
- ・ 藤堂高虎公入府 400 年にちなんだ古地図等や、「明治・大正期の津まつり」の様子が分かる観光ハガキ、「津八幡宮祭礼絵巻に見る津まつりと津の町屋」等の展示を行うとともに、パンフレットの配布を行いました。
- ・ 津市文化財保護審議会及び同審議会建造物・考古資料・史跡部会の専門家による指導を受けるとともに関係所管との調整を行い、保存管理計画を策定しました。
- ・ 県指定史跡を適切に保存管理していくために必要となる基本方針等を定めた保存管理計画をもとに、市民団体とともに公園の維持管理に努めました。
- ・ 古文書・古写真・絵図調査等の基礎調査及び石垣測量調査を実施しました。また、「津城跡の整備活用を考える会」を立ち上げ、津城跡及び周辺地区の整備と活用についての検討を実施しました。
- ・ 商店街の空き店舗等を活用し、地元大学生が地域活性化に取り組む「つ・だいもん学生マルシェ」や、地元高校生による地元産品を使った商品開発・販売を行う「T G ☆ S h o p」を実施しました。
- ・ 平成 20 年 9 月、津センターパレス地下フロアに「津市まん中交流館」及び「津市市民オープンステージ」を設置し、市民の活動の場としてスペースの提供を行うほか、平成 21 年にはフロア内に「シロモチくんの館」を移設し、藤堂高虎公及び津城に関する情報を発信しました。なお、開館以降の利用者数は、平成 21 年度末で延べ約 98,000 人でした。
- ・ 平成 21 年度に津市まん中交流館において、新たな交流活動や同館の利用促進を目的として、交流イベント「親子で作ろう！夏休み工作教室&科学体験教室&津の物産展」、「ウインターフェスタ 2009」及び「ひなまつり市 2010」を開催しました。
- ・ 中心市街地の活性化等を目的として、地元商店街等の団体に取り組む「花いっぱい元気な街おこし」、「津・大門の七夕まつり及び光涼祭」、「つ七夕まつり」、「津観音開創 1300 年記念縁事業」、「津・大門のおひなさん」などの事業を支援しました。

- ・津なぎさまちと、中心市街地（津城跡及びその周辺地区）、津インター周辺地区の 3 つを新都心軸と位置付け、その形成について必要な調査研究業務である「新都心軸拠点導入機能等調査研究業務」を実施するなかで、検討を進めました。
- ・みなとまちづくりの機運を高めるため、津なぎさまちを会場に、市民との協働によるサマーナイトフェスタやクリスマスイベント、さらには、シンポジウム等を開催しました。

今後の取組

- ・市民の憩いの場として活用されている津城跡と、その周辺地区を整備・活用するため、津城復元に向けた啓発等の取組を進め、市民の皆さんの機運の高まりを踏まえつつ、市のランドマーク・中心市街地の核としての整備を検討していきます。
- ・復元のための基礎資料となる古地図・図面等の資料収集に取り組むとともに、石垣の測量調査についても継続的に実施していきます。
- ・津市まん中交流館やシロモチくんの館のPRを継続するとともに、利用者のさらなる拡大を図ることにより、中心市街地の集客及び活性化を図っていきます。
- ・新都心軸の形成に向けて、新都心軸連携計画及び各拠点地区基本計画を策定します。また、計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。
- ・中心市街地が魅力的で賑わいのある交流の場として、また地域コミュニティや人材育成などの役割を担う場として、持続的かつ発展的に活性化していくため、また中心市街地における商店街の空洞化の抑制などを目的として、中心市街地における商店街を一つの「まち」として捉え、商店街等と連携しながら空き店舗や公共施設などを効果的に活用し、学生のための活動スペースやチャレンジショップなどを設置する事業に取り組めます。
- ・中心市街地の活性化及びまん中交流館の利用促進などを目的として、市民活動団体などと協働し、新たな市民の交流や賑わいの創出となるまん中交流館交流イベントを開催します。
- ・中心市街地における現状等の調査を行うとともに、地元商店街組合等との協議等を通じ、活性化に向けた取組を進めます。
- ・中心市街地の活性化に向け、地元商店街組合等が実施する取組を支援します。

2 副都市核の整備

(1) 久居駅東側周辺地区の整備

(都市計画部、政策財務部)

前期基本計画における目標

- ・久居駅東側周辺地区については、本市南部の玄関口としての駅前の利便性を活かし、民間活力の導入も視野に入れつつ、賑わい性を高めるための副次的な都市機能の整備を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・民間の事業ノウハウと企画力で、実現性の高い事業を実施できるよう、民間資金活用型事業プロポーザル方式により、民間の事業推進者を募集し、優先交渉権者を決定しました。
- ・整備に際しては、国有地と市有地の交換が必要となることから、交換のための測量業務及び鑑定評価を実施しました。
- ・平成 22 年 2 月に市民を対象とした事業説明会を開催しました。

今後の取組

- ・民間事業者と基本協定を締結し、事業を推進します。
- ・引き続き防衛省等と用地交換に向けた協議を実施します。
- ・ワークショップや説明会により、市民の意見を伺いながら具体的な事業内容を決定していきます。

3 産業拠点を中心とした企業立地の促進と産業の高度化

(商工観光部)

前期基本計画における目標

- ・あかつピアにおいては、三重県との連携及び県内における広域連携を図りつつ、本市の産業振興の拠点として産業振興センターを設置します。本センターについては、産学官連携や産産連携のために研究者が集い、新たなイノベーションを進める場としていくとともに、地域資源を活用した新商品開発など、新たな事業展開を進める企業に対するマーケティング等の支援を行うことによって、研究開発型産業基盤の整備と同時に市内産業全体の振興を図っていきます。
- ・企業立地の促進にあたっては、「津地域産業活性化基本計画」に指定する業種を誘致対象の中心として、本市の優位性のPR、他地域との差別化、きめ細かい立地サポートなど戦略的に取り組みます。
- ・中勢北部サイエンスシティ、ニューファクトリーひさいを、本市における産業を牽引する拠点と位置づけ、広域的な産業連携を図りつつ、企業立地をさらに促進するため、中勢北部サイエンスシティ第1期事業区域の造成や関連公共施設の整備、ニューファクトリーひさいの区画分割整備によって、企業立地を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・中勢北部サイエンスシティ内「あかつピア」に、本市の産業振興拠点として、産業振興センターを設置するとともに、情報メディアやインターネットを活用した、魅力のある産業の育成と雇用の場の形成に向けた情報発信をはじめ、企業展への出展や産業人交流会議でのPR・情報収集などを行いました。
- ・三重県とともに本市が進める「メカトロ技術を活用した関連産業」の集積・形成を促進するための「メカトロ技術活用による地域イノベーション創出戦略調査」を実施しました。
- ・三重県・三重県産業支援センター・大学等との協力連携のもとでメカトロ関連産業の振興を進める体制を整備し、企業訪問やセミナーの開催等を通じ、企業間マッチングや産産連携を進める一方、講座の開催等による人材育成に取り組みました。
- ・3大都市圏を中心とした企業情報の収集や、市内企業情報検索システムの構築を行いました。
- ・中勢北部サイエンスシティについては中勢バイパス沿いの一部区画を造成し、分譲を開始したほか、ニューファクトリーひさいの区画分割整備を行いました。
- ・中勢北部サイエンスシティについては、企業訪問や、企業展への出展などの展開により、総合計画における分譲目標において、約 80%の分譲率を達成することができました。

今後の取組

- ・三重県、関係機関並びに研究機関などとの協力連携のもと、地域イノベーションの創出に向けて、メカトロ関連産業の振興を図り、地域産業の生産性向上や技術力・開発力の向上のため、メカトロ導入の推進、技術開発の環境整備、メカトロ人材の育成などを進めていきます。
- ・今後も引き続き、三重県、金融機関及び各種事業者との情報交換・収集に努めるとともに、本社機能が集中する首都・中京・関西の3大都市圏を中心に、積極的な企業誘致活動を継続していきます。

4 広域交通ネットワークの形成

(1) 環状放射型道路交通網の整備

(建設部)

前期基本計画における目標

- ・近畿自動車道伊勢線、中勢バイパス、国道 23 号、国道 163 号、国道 165 号、国道 368 号、主要県道路線は、市の骨格を形成する広域幹線道路として、関係機関に要請して整備の促進を図り、圏域内外から人や物が集中、分散させていくための円滑かつ利便性の高い広域連携軸を形成します。
- ・広域連携軸を補完しつつ、各地域間の有機的な連携、交流へと結びつけていく域内連携軸として整備の促進を図り、人や物を移動させるための交通機能の強化はもとより、都市環境機能、都市防災機能、市街地形成機能などの多様な機能を有する道路として整備推進を図ります。
- ・都市部及びその周辺に集中する交通を適正に配分し、都市部への不要な通過交通の抑制による交通の円滑化と生活道路の安全性を確保するため、都市環状道路などの形成を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・道路新設改良事業（交付金事業）である井生波瀬線及び街路改良事業（交付金事業）である上浜元町線（押加部町ほか 3 町地内）については、県からの追加により目標以上の事業進捗を達成することができました。
- ・道路新設改良事業（交付金事業）の広明町河辺町線他 2 路線については、当初予定の平成 20 年度から 21 年度に繰越となりましたが、概ね計画どおり実施できました。
- ・まちづくり交付金事業である浜田長岡線については、平成 21 年度に一部交差点の工事に着手しました。
- ・中勢バイパスについては、平成 23 年度の国道 165 号以南の開通に向け、地元調整など行い、国とともに事業促進に努めました。その他の骨格となる幹線道路についても、県に対して着実な事業進捗が図られるよう要望を行うとともに、市の責任分担を果たしてきました。

今後の取組

- ・中勢バイパス、国道 23 号、国道 163 号、国道 165 号、国道 368 号、主要県道路線について、今後も引き続き整備の促進を図ります。
- ・上浜元町線（押加部町ほか 3 町地内）については、平成 23 年度の完成を目指し、事業を推進します。
- ・すべての市民が都市的なサービスを楽しむよう、環状放射型道路交通網の整備に引き続き取り組んでいきます。

(2) 地域交通体系の計画的な構築

(都市計画部)

前期基本計画における目標

- ・ 地域公共交通の連携等に係る協議会の設置を通じ、誰もが移動しやすい公共交通網の形成を図るため、公共交通等のアクセス利便性と回遊性の向上、地域交通の改善に取り組むとともに、地域の実情を反映し、長期的な視野に立った地域交通の未来像と望ましいあり方に関する総合的な対策について、関係者による協議と市民との協働により検討を進め総合的な交通ネットワークの形成をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 平成 20 年度に「津市地域公共交通活性化協議会」を設置し、地域公共交通のあり方について協議を行いました。
- ・ 公共交通ネットワークのひとつであるコミュニティバスを、効率的かつ利便性の高い一体的な事業へと見直す取組を行い、平成 20～21 年度にかけては、地域審議会や地域懇談会など合計 60 回以上にわたり、地域に出向いて地域住民との説明会、意見交換を行いました。
- ・ また、それらを踏まえ、平成 21 年度には、公共交通システム調査・研究事業をまとめ、地域公共交通総合連携計画を策定し、コミュニティバスの新たな運行案を取りまとめました。

今後の取組

- ・ 平成 22 年 4 月から、再編したコミュニティバスの運行を開始しておりますが、引き続き周知・PRを行うとともに、運営方法の改定も視野に入れつつ、適宜確認しながら運営していきます。
- ・ 平成 21 年 10 月の台風 18 号による被災後、復旧が進んでいない JR 名松線の一部区間（家城駅－伊勢奥津駅間）につきましては、今後も全線の復旧に向けて、取り組んでいきます。

②自然の恵みの価値創造プログラム

1 豊かな自然の恵みを次世代に引き継ぐための取組

(1) 農山村活性化プロジェクトの推進

(農林水産部)

前期基本計画における目標

- ・ 農林業を基盤とする農山村活性化を図るため、森林セラピー基地と連携し、「つ産材」の利用、獣害対策の促進等に取り組むとともに、関係団体、企業、学校等との協働のもと、耕作放棄地等を利用した賑わいの場づくりに取り組むなど、農林業の付加価値を高め、都市と農山村の交流を促進し、活性化するための総合的な取組を進めます。また、農業基盤の整備を推進するなど、農地と集落が一体となった農村集落の維持継承に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 有害鳥獣による農林産物の被害防止対策として、平成 20 年度に 48 件・約 60km、平成 21 年度に 55 件・47km の防護柵を設置しました。
- ・ 有害鳥獣対策事業（個体数調整）におけるシカの捕獲数が、平成 21 年度は、昨年度の実績（427 頭）を大幅に超える 1,603 頭と大きな成果を上げることができました。
- ・ 平成 21 年度の新規事業である地域農業基盤創生事業については、地域農業振興への取組に対する支援を行うとともに、各種の会議・研修会等を通じて周知を図りました。
- ・ 土地改良事業のうち、市単独事業部分については、概ね目標どおり、頭首工 1 箇所 L=26 m、農道舗装工事 L=470m、水路工事 L=572.4m の工事を行いました。また、県営事業部分については、17 箇所において事業を実施するとともに、その他、県及び地元土地改良区等との調整も実施しました。

今後の取組

- ・ 引き続きセラピーロードの整備に取り組むのをはじめ、滞在型市民農園を活用した「田舎暮らし体験塾」の実施など農山村のにぎわいの場づくりに取り組みます。
- ・ 今後も引き続き、防護柵の設置とともに、個体数調整・追い払い等を実施し、有害鳥獣被害の防止に努めます。
- ・ 地域農業基盤創生事業等により、地域農業振興への取組に対する支援を行い、農林業の更なる振興に取り組みます。
- ・ さらに、土地改良事業による農業用施設の整備を通じて、農地と集落が一体となった農村集落の維持継承に取り組みます。

(2) バイオマス等の活用

(農林水産部、環境部ほか)

前期基本計画における目標

- ・美杉地域をはじめとする中山間地域においては、木質系バイオマスの活用など、新たな森林資源活用システムの研究等、具体化に向けた取り組みを進め、バイオマス資源等を活用した地域循環型産業の新たな拠点の形成をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・木質バイオマス導入に関する検討会設立を目指し、美杉地域の林業関係者及び団体と先進事例地についての研修等を企画・実施しました。

今後の取組

- ・採算性等の課題を踏まえ、引き続き県・関係団体等と協議しながら、実現可能な事業のあり方について検討していきます。

2 森林セラピー基地の整備

(農林水産部、美杉総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・豊かな森林の恵みを活かし、森林セラピー基地（セラピーロードと宿泊施設）を活用したヘルスツーリズムを積極的に展開します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域かがやきプログラムと連携し、下記の取組を中心とした森林セラピー基地の整備を実施しました。
- ・森林セラピーコースとして、君ヶ野ダム湖畔コース、高束山コース、霧山コース、三多気蔵王コース、三多気大洞山コース、大洞山石畳コース、日神西浦コース、平倉コースの 8 つを設定しました。各コースに案内看板、ベンチ、休憩施設等を整備したほか、コース内の公共施設等各拠点施設に血圧計などの健康チェック機器を設置しました。
- ・平成 21 年 10 月に、美杉地域において森林セラピー基地をグランドオープンし、記念イベントには約 500 人の参加がありました。また、それに合わせ、セラピーコースを紹介・案内するパンフレットや地図を作製し、東京及び大阪のメディア向け観光展で配布し、PR を行いました。

今後の取組

- ・引き続き、地域かがやきプログラムと連携し、セラピーロードの整備に取り組むのをはじめ、滞在型市民農園を活用した「田舎暮らし体験塾」の実施などを通じて、地域が一体となったヘルスツーリズムの展開を図ります。

3 山から海まで河川流域の一体的な取組

(1) 山と川と海のネットワークづくり

(環境部、農林水産部)

前期基本計画における目標

- ・ 布引山地から伊勢湾まで、山・川・海の各地域の市民・事業者の交流会や学習会の開催などを通じて、相互のコミュニケーションを図り、それぞれの地域の課題解決に向けたネットワークづくりを行います。
- ・ 森林などにおいては、イベントの開催などを通じて、市民の活動を活発化し、山・川・海を活用した交流を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 平成 20 年 9 月に市民団体である新雲出川物語推進委員会が設立され、この委員会と協働で、10 月には美杉地域で植樹イベントを開催したのをはじめ、ホームページの作成や、香良洲地域での学校と連携したイベントなどを開催しました。また、同委員会は、河川の上流部から河口部までの各地域間の交流をテーマとした活動を行い、各地域の市民・事業者等の相互理解を深めました。
- ・ 平成 21 年度には、新雲出川物語推進委員会と協働し、美杉地域において前年度に植樹した山・川・海ネットワークの森の下草刈り、白山地域において川をテーマとした雲出川家城ラインエコウォーク、海をテーマとした浜辺学習会を開催するとともに、つ・環境フェアへの参加など、沿岸部から山間部までそれぞれの地域住民が相互に参加していただくことで、交流を促進しました。

今後の取組

- ・ 引き続き、新雲出川物語推進委員会との協働により、山と川と海のネットワークづくりを推進し、各地域間の相互理解を深め、地域をこえた市民・事業者のネットワークづくりを推進します。

(2) 生活排水対策の総合的な推進

(下水道部、農林水産部、環境部)

前期基本計画における目標

- ・ 公共用水域の水質保全や自然環境の保全を図るため、「生活排水処理施設整備計画」に基づき、効率的な下水道事業の推進に取り組みます。
- ・ 中勢沿岸流域下水道の志登茂川処理区、雲出川左岸処理区、松阪処理区における幹線及び処理場整備を進めるとともに、志登茂川処理区の早期供用開始を促進します。
- ・ 公共用水域の水質保全に寄与するため、農業集落排水の供用率の向上や浄化槽の設置を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 市内全域の生活排水処理の方針を定める「生活排水処理施設整備計画（生活排水処理アクションプログラム）」の見直しについては、具体的な調査、検討を進めました。
- ・ 公共下水道については、平成 24 年度の下水道普及率 44.0%の達成に向け、平成 20 年度には 41.1%、平成 21 年度には 42.2%を達成し、着実に整備することができました。また、中勢沿岸流域下水道志登茂川処理区の浄化センターの建設について、県に対して事業進捗が図られるよう要望を行ってきました。
- ・ 農業集落排水については、未接続世帯への接続啓発を実施しました。
- ・ 公共下水道の未整備地域については、津市浄化槽設置整備事業補助金交付要綱に基づく浄化槽の設置促進に取り組み、概ね目標を達成しました。

今後の取組

- ・ 今後も引き続き、公共用水域の水質保全に向けて、下水道事業の推進、農業集落排水の供用率向上及び浄化槽設置の促進に努めるとともに、市内全域の生活排水処理の方針を定める「生活排水処理施設整備計画（生活排水処理アクションプログラム）」の見直しを進めます。

(3) 治水・治山対策の総合的な推進

(農林水産部、環境部、下水道部、建設部)

前期基本計画における目標

- ・雲出川水系（雲出川・雲出古川・波瀬川）、相川水系（相川・天神川）、安濃川水系（安濃川・岩田川・三泗川）、志登茂川水系（志登茂川・横川）の河川改修事業を促進するとともに、準用河川五六川改修の早期の完成をめざします。
- ・高潮対策や地震、津波対策のため、海岸堤防の整備を促進するとともに、雨水幹線の整備区域の拡大を図り、排水機場等の整備、改修と適切な維持管理を通じて、浸水被害の軽減及び防除、排水能力の向上に努めます。
- ・土砂災害等を防止するため、県と連携して急傾斜地崩壊防止対策、土砂流出防止対策、地すべり防止対策を進めるとともに、長期的な展望に立った継続的な森づくり活動の促進に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・河川改修事業及び河川維持事業については、五六川改修事業や藤方排水路の大規模しゅんせつなどを実施しました。
- ・大型台風や集中豪雨に伴う浸水被害や土砂災害を防止するため、河川改修事業、河川維持事業、公共下水道事業（雨水）、都市下水路事業、急傾斜地崩壊対策事業及び地すべり防止対策等治山事業に取り組みました。
- ・公共下水道事業（雨水）については、阿漕及び東部雨水幹線の整備、都市下水路事業については、栗真町屋及び上浜都市下水路における雨水幹線の整備を概ね順調に進めることができました。
- ・急傾斜地崩壊対策事業及び地すべり防止対策等治山事業については、事業実施主体である県に対し、事業促進を働きかけてきましたが、国の動向等により、未だ低い達成率となりました。

今後の取組

- ・河川改修事業、河川維持事業及び雨水幹線整備事業について、引き続き実施していくとともに、急傾斜地崩壊対策事業及び治山事業の実施については、県等に、より積極的に要望し、事業の早期実施を促進します。

③海に開くまちづくりプログラム

1 津なぎさまちの整備

(都市計画部)

前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、津松阪港港湾計画の変更を視野に入れながら、背後地の活用方策や中心市街地との連携、交流拠点として求められる機能や整備内容などの検討を進め、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・みなとまちづくりの推進については、津なぎさまちと、中心市街地（津城跡及びその周辺地区）、津インター周辺地区の 3 つを新都心軸と位置付け、その形成について必要な調査研究業務である「新都心軸拠点導入機能等調査研究業務」を実施するなかで、検討を進めました。
- ・みなとまちづくりの機運を高めるため、津なぎさまちを会場に、市民との協働によるサマーナイトフェスタやクリスマスイベント、さらには、シンポジウム等を開催しました。

今後の取組

- ・新都心軸の形成に向けて、新都心軸連携計画及び各拠点地区基本計画を策定します。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。

2 魅力ある津の海の環境整備

(1) 観光資源の魅力の向上

(商工観光部)

前期基本計画における目標

- ・津の海を有効に活用し、さらなる交流の創出を図るため、白砂青松などの景観保護に努めるとともに、海の家やレジャー・レクリエーション施設を活用した観光エリアの形成を図り、観光資源の魅力向上に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・海の家等と協力して海岸・堤防周辺の清掃活動を行い、観光地としての環境保護に努めました。
- ・平成 21 年度に、御殿場緑地内において 250 台分の駐車場を整備し、より観光客が利用しやすい環境づくりを行いました。

今後の取組

- ・企業や市民との協働により景観保全、環境美化に取り組むための、民間を中心とした推進体制について検討していきます。
- ・海の家やレジャー・レクリエーション施設を活用した観光エリアの形成について、海岸堤防の整備事業との整合を図りながら国道 23 号からのアクセス道路や、エリア内のコミュニティ道路の整備を推進します。

(2) 海岸堤防の整備促進

(建設部)

前期基本計画における目標

- ・津松阪港の海岸堤防については、地域住民に親しまれ、海辺とふれあえる景観をもった潤いのある安全な堤防にしていくため、国の直轄事業であるふるさと海岸整備事業により、引き続き贄崎工区の整備促進を図るとともに、現在、未着手となっている阿漕浦・御殿場工区及び栗真町屋工区の早期事業化を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・贄崎工区については、平成 23 年度の完成を目途としており、計画どおり整備促進を図ることができました。
- ・阿漕浦・御殿場工区及び栗真町屋工区については、新規事業化には至りませんでした。栗真町屋工区で「海岸保全施設のありかた検討会」やワークショップを行うとともに、海岸堤防の老朽化調査等を実施しました。

今後の取組

- ・阿漕浦・御殿場工区及び栗真町屋工区について、引き続き、早期事業化に向け、地域住民と一体となった関係機関への要望などに取り組めます。

(3) 河芸町島崎町線の整備

(建設部、都市計画部)

前期基本計画における目標

- ・中勢バイパス、国道 23 号などの広域連携軸や域内の連携軸を補完し、域内外との連携と交流を高める中心的な道路となる河芸町島崎町線については、魅力ある津の海的环境整備の一層の向上のため、ふるさと海岸整備事業栗真町屋工区の事業化と併せ、県と連携しながら整備を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ふるさと海岸整備事業栗真町屋工区の事業化とあわせて実施できるよう、都市計画変更を行うなど国・県との協議を進めました。

今後の取組

- ・国・県との協議を継続し、早期事業化を要望していきます。

3 漁港等の整備

(農林水産部)

前期基本計画における目標

- ・水産業の振興をめざし、活気あるみなとづくりを進め、漁業生産拠点としての機能の向上を一層図るため、漁港等の環境を整えます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・白塚漁港の静穏度を高めるための南防波堤の延伸事業について、方塊、消波ブロック等の製作、延伸工事を実施（50m 中、20m 完了）しました。
- ・香良洲漁港航路浚渫については、泊地と航路に分けて 3 年に 1 回程度定期的に整備する必要がある、航路の浚渫を実施しました。

今後の取組

- ・白塚漁港について、引き続き南防波堤の延伸工事の実現に取り組むとともに、河芸・香良洲漁港についても、引き続き、漁港の機能維持及び充実に向けた事業の展開を図っていきます。

④持続可能な地域形成プログラム

1 森林・自然アカデミー事業の推進

(環境部、農林水産部、教育委員会、水道局、総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 広大な森林に恵まれた津市の自然環境を市民自らが共通の財産として保全し、将来に引き継げるよう、林業関係者、環境NPO、三重大学をはじめとする多様な主体の参画のもとに、環境学習の拠点づくりなどの森林・自然アカデミー事業に取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 林業関係者や環境NPO、三重大学をはじめとする多様な主体の参画のもと、三重大学演習林施設を有効活用した環境学習の拠点づくりに向けた検討を進め、「森林・自然アカデミー実施計画」を策定しました。
- ・ 「森林・自然アカデミー実施計画」に基づき、三重大学と連携し、演習林施設を活用した「森林自然アカデミー事業（子ども樹木博士）」を実施しました。
- ・ 地域林業関係団体との連携により、森林・木工教室を開催しました。

今後の取組

- ・ 募集方法や事業内容も検討を重ね、引き続き、「森林・自然アカデミー実施計画提案書」に基づく事業を実施します。

2 市民版環境マネジメントシステムの普及促進とごみ減量化

(環境部、各総合支所)

前期基本計画における目標

- ・「生活かえる！エコエコ家族」事業など、市民版環境マネジメントシステムの普及を促進するとともに、5月30日の「ごみゼロの日」、6月の「環境月間」、10月の「3R推進月間」等にちなんだ統一行動日、月間を設けるなど、環境に対する意識啓発を図ることで、ごみ減量に取り組みます。
- ・ごみの減量化と再資源化を推進するため、より一層のごみ分別PRの徹底を図る方策として、「ごみダイエット塾」の開催などを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・「生活かえる！エコエコ家族」事業など市民版環境マネジメントシステムについて、小学校の授業、広報紙への掲載、津まつりへのブース出展等により普及促進に努めました。
- ・市内全地域において市民清掃デーを開催し、平成 20 年度で約 54,000 人、平成 21 年度で約 52,000 人の参加がありました。
- ・ごみ分別や排出の市民意識を高めるため、「ごみダイエット塾」や「ごみナビゲーション」を平成 20 年度に計 76 回、平成 21 年度に計 30 回開催しました。

今後の取組

- ・引き続き、環境活動団体等と連携して、ごみ減量化、再資源化を推進するための啓発活動を行うとともに、市民版環境マネジメントシステムの普及を図ります。

3 新最終処分場の建設

(環境部)

前期基本計画における目標

- ・環境に配慮した安全で安心な処理方式の採用による新最終処分場の建設を推進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・平成 20 年 12 月 30 日に、美杉町下之川字高山・西狭間地内を新最終処分場の建設地として決定し、基本協定を締結しました。
- ・平成 21 年 3 月 31 日に、建設地への施設整備に関する基本的事項を定めた「津市新最終処分場等施設整備基本計画」を策定しました。
- ・「津市新最終処分場等施設整備基本計画」に基づき、平成 21 年度に、計画区域の用地調査、測量及び環境影響評価（方法書作成）を実施しました。

今後の取組

- ・環境保全に配慮した事業とするため、引き続き環境影響評価（現況調査～準備書・評価書作成）を実施し、その結果を踏まえた上で、設計、建設工事に着手し、平成 27 年度末までの早期完成に向け事業を進めます。

4 津エコビレッジ（仮称）の形成促進

（環境部、農林水産部、商工観光部ほか）

前期基本計画における目標

- ・ 持続可能な地域形成にとって不可欠な環境産業の振興を図るため、バイオマス等を活かした地域循環型産業の育成や立地促進を図るとともに、風力発電施設や森林・自然アカデミーを活かし、環境をテーマとした地域振興をめざす「津エコビレッジ（仮称）」の形成を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 木質バイオマスの利活用について、素材としての活用及びエネルギー源としての活用の両面の検討を行うため、シンポジウムへの参加や、先進地の視察を行いました。
- ・ 三重大学教授をアドバイザーとして、木質バイオマスについての意見を聴取するための会議を開催しました。
- ・ 津エコビレッジ（仮称）の形成促進については、木質バイオマスの有効活用を前提とした事業の検討を行いました。

今後の取組

- ・ 採算性等の課題を踏まえ、引き続き県・関係団体等と協議しながら、実現可能な事業のあり方について検討していきます。

⑤歴史と文化の拠点形成プログラム

1 一身田寺内町の町並み保全と活用

(スポーツ文化振興部、教育委員会、建設部、下水道部、都市計画部、
商工観光部ほか)

前期基本計画における目標

- ・「一身田寺内町地区都市再生整備計画」に基づき、寺内町を囲む環濠や伝統的な町並みなどの歴史的資源について、住環境に配慮しつつ保全を図るなど、暮らしが息づく生きた町並みとして次世代に継承していきます。
- ・歴史的な環境を活かした整備を行うことにより、統一された景観形成や、世代の別なく安全で暮らしやすい、落ち着いた良好な生活空間を提供していきます。
- ・「一身田寺内町の館」を核に、観光ボランティアガイドとの連携やまち歩きなどを通して、観光資源としての活用や、市民の学習の場としての活用など、知名度を活かした誘客に取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・道路のカラー舗装、ガードパイプ等の修景整備、交差点改良整備及び環濠導水整備等を実施し、周辺景観と調和した環境整備を進めました。
- ・一身田寺内町観光振興懇話会を開催し、地域住民が主体となった環濠清掃・浄化活動などのまちづくり活動を支援しました。
- ・一身田寺内町の中心となっている高田本山専修寺やFM放送と連携し、芸能・音楽鑑賞会の実施等を通じた一身田寺内町の歴史・文化の周知を図りました。
- ・「一身田寺内町ガイドマップ」を 7,000 部、また、昭和初期に高田本山周辺で撮影された映画のロケ地を案内した「一身田寺内町シネマップ」を 2,000 部印刷し、一身田寺内町の館において来館者に提供するほか、観光ボランティアガイドによるガイド時やウォーキングイベント時にも配布し、観光拠点としての魅力向上に努めました。

今後の取組

- ・引き続き、周辺景観に調和する道路整備等を進めるとともに、地元住民と連携を図りながら、清掃活動や観光・文化・商工業の振興など住民主体のまちづくり活動を支援します。

2 多気北畠氏城館跡周辺地区の保全と活用

(教育委員会、スポーツ文化振興部、商工観光部、美杉総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・多気北畠氏遺跡の価値とその構成要素を明確化し、適切な保存管理を行っていくため、保存管理計画を策定するとともに、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・貴重な歴史資源や豊かな自然を活かしたまち歩きコースの活用や、伝統芸能などとの連携による地域振興を図ります。
- ・歴史の道百選にも選ばれた伊勢本街道の道標、家並みの保全・活用、有形・無形文化財の保護と史跡の管理、歴史・文化の伝承活動などを進めます。
- ・三重県とも連携し、地域住民が主体となった歴史・文化が息づく地域づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・史跡である多気北畠氏城館跡を適切に保存管理していくために必要となる方針等を定める「多気北畠氏城館跡保存管理計画」を策定しました。
- ・史跡多気北畠氏城館跡と一体となる「名勝北畠氏館跡庭園」の保存管理計画について、平成 23 年度中の策定を目指し、策定作業に着手しました。また、動植物の専門家による指導の結果、庭園保存にかかる本質的な課題は少なく、シカの食害や生け垣による景観の阻害などの課題を明確にすることができました。
- ・平成 21 年度に、森林セラピー基地グランドオープンに合わせ、北畠神社境内において薪能を開催しました。
- ・地域かがやきプログラムにより実施した、伊勢本街道を活かした地域づくり協議会への委託事業により、街道整備をはじめとする地域の受け入れ態勢も整いつつあり、モニターツアーの開催、街道沿いののれんや屋号看板、案内板の設置を行い、地域住民と一体となった地域づくりを進めることができました。
- ・平成 21 年度に三重県県土整備部景観まちづくり室により、県道嬉野美杉線がカラー舗装され、地域の歴史文化に即した景観づくりが促進されました。

今後の取組

- ・「名勝北畠氏館跡庭園」の保存管理計画について、早期の策定を目指します。また、計画策定後は、史跡多気北畠氏城館跡と名勝北畠氏館跡庭園の一体的な保全・活用に取り組めます。

3 津城跡（お城公園）周辺地区の整備と活用

（スポーツ文化振興部、教育委員会、建設部、商工観光部）

前期基本計画における目標

- ・津城跡の本質的な価値を明確にし、次世代に伝えていくため、津城跡保存管理計画を策定するとともに、歴史的価値の保存・活用を図ります。
- ・公共施設等の有効利用による歴史資料室の開設や、ゆかりの地の碑の設置、観光ボランティアとの連携などにより、城下町の町並みや藤堂高虎公の功績を広く地域内・外の人に知ってもらうための取組を進めます。
- ・津城跡については、市民の機運の高まりを踏まえつつ、復元について調査研究を行います。

平成 21 年度までの取組実績

- ・津市文化財保護審議会及び同審議会建造物・考古資料・史跡部会の専門家による指導を受けるとともに関係所管との調整を行い、保存管理計画を策定しました。
- ・県指定史跡を適切に保存管理していくために必要となる基本方針等を定めた保存管理計画をもとに、市民団体とともに公園の維持管理に努めました。
- ・平成 20 年度に社会福祉センターにおいて、案内所「シロモチくんの館」を開設し、藤堂高虎公及び津城に関する情報を発信しました。また平成 21 年度には、津センターパレス地下の「津市まん中交流館」に「シロモチくんの館」を移設し、より効果的な情報発信に努めました。
- ・藤堂高虎公入府後の藤堂藩の功績やゆかりの地についての周知を図るため、市内の藤堂藩ゆかりの地にいしぶみを設置しました。
- ・藤堂高虎公啓発事業として、高虎公を顕彰する各ボランティア団体と案内所の設置に向けた協議をはじめ、周遊コースづくり・情報交換などを目的とした勉強会・講演会を実施しました。
- ・古文書・古写真・絵図調査等の基礎調査及び石垣測量調査を実施しました。
- ・「津城跡の整備活用を考える会」を立ち上げ、津城跡及び周辺地区の整備と活用についての検討を実施しました。

今後の取組

- ・具体的な整備内容を定める整備活用計画については、平成 22～23 年度の 2 力年をかけ策定に取り組みます。
- ・復元のための基礎資料となる古地図・図面等の資料収集に取り組むとともに、石垣の測量調査についても継続的に実施していきます。
- ・津城跡の整備活用を考える会をはじめ、広く市民の意見を整備活用計画の策定に活かします。

4 千歳山の保全と活用

(政策財務部、建設部)

前期基本計画における目標

- ・ 藤堂藩のゆかりの地であり、16 代川喜田久太夫（川喜田半泥子）の陶芸の創作の地であった千歳山については、歴史的な経過を踏まえ、文化的、環境的側面等を活かした市民の憩いの場となるよう検討しつつ、市街地にまともって緑が残された公園として、その保全と活用を図ります。
- ・ 市民の創作活動や体験を通じ、身近に文化に触れることのできるアトリエ等の施設を検討し、整備を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 市民との協働により千歳山の整備に向けた基本構想を策定するため、津市千歳山を考える会を設置し、現地視察及び意見交換を通じ、整備の方向性や市民参加による管理のあり方等について検討を行いました。
- ・ 千歳山及び周辺地域において、樹木及び草刈り作業を実施し、周辺環境美化・保全管理に努めました。
- ・ 基本構想策定作業に向けた環境調査において、千歳山における自然環境の見所や自然観察スポットなどの現状を把握し、公園設計にあたり参考となる基礎資料の作成に取り組みました。

今後の取組

- ・ 津市千歳山を考える会から整備の方向性に関する意見をいただくとともに、整備に係る基本構想の策定に取り組むほか、維持管理における市民参加の手法について検討を行っていきます。

5 文化芸術の拠点性の向上

(スポーツ文化振興部、教育委員会)

前期基本計画における目標

- ・三重県が検討を進める新しい博物館について、本市への整備を促進します。
- ・市民の文化・芸術の鑑賞や発表、練習等の場として、文化施設の有効活用を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・三重県が検討を進める新しい博物館の本市への整備を要望し、本市が建設予定地として選定されました。

今後の取組

- ・新博物館について、県や関係機関と協力して整備を促進していきます。
- ・公共施設等について、市民の文化・芸術の鑑賞や情報発信の場として活用できるよう、検討を進めます。

⑥健康とスポーツの振興プログラム

1 まち歩き（ウォーキング）による健康づくりの促進

（健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部、総合支所ほか）

前期基本計画における目標

- ・運動不足を解消し、生活習慣病を予防するために、生活の身近な場所や、あらゆる機会を通じて、市民が自主的に健康づくりに取り組めるよう、まち歩き（ウォーキング）を促進し、日常的に体を動かす習慣づくりに取り組みます。
- ・セラピーロードをはじめとする、自然や歴史など本市の多様な資源を活用したウォーキングコースにおいて、体験し、学び、癒されるなど、歩くことに楽しむ要素を加えたまち歩きを積極的に推奨するとともに、イベントの開催など観光振興をはじめとしたまちづくりのさまざまな機会において歩く機会を創出することで、市民の健康づくりと集客交流のまちづくりを総合的に進めます。

2 地域特性を活かしたウォーキングコースの設定と全国規模の大会開催

（健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部、総合支所ほか）

前期基本計画における目標

- ・地域特性を活かした新たなウォーキングコースの設定やウォーキングマップの作成、コースの案内板等の設置など、楽しみながら歩くことができる環境づくりに取り組みます。
- ・全国規模のウォーキング大会の開催に向けた取組を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・まちの魅力を、歩くことで実感できる「まち歩きコース」13 コースを設定するとともに、森林セラピーロードとして 8 コースを設定し、その内、森林セラピーロード 2 ロードについての健康体感マップを作成しました。
- ・各地域の健康づくり推進員主催のウォーキングを、平成 20 年度は 6 回、平成 21 年度は 7 回開催しました。
- ・平成 19 年度に作成したウォーキングマップを、各保健センターの窓口での配布及びホームページへの掲載を通じ、周知を行いました。
- ・まち歩きコースの設定や域内交流を推進するための事業として、らくらくフェスタ事業に取り組み、平成 19 年度及び 20 年度は美杉、白山、一志、久居など津南方面、平成 21 年度は美里、安濃、芸濃など津北西方面でループバスを運行し、延べ 8,639 人の利用者がありました。

今後の取組

- ・引き続き、地域ウォーキング事業などを実施し、若者や勤労者の参加も促進するための仕組みづくりに取り組みます。また、巡回バスについてもさらなる充実を図るとともに、公共施設のみならず民間施設への立ち寄りを促進し、消費を促進する仕組みづくりについても検討していきます。
- ・引き続き、森林セラピーロード健康体感マップづくりを進め、全コースのマップ作成に努めます。

3 健康づくりやスポーツ振興に取り組むための地域ネットワークづくり

(健康福祉部、スポーツ文化振興部)

前期基本計画における目標

- ・市民の健康づくりやスポーツの振興に向けて、それぞれの活動を支援するボランティアの育成に努めるとともに、地域で健康づくりやスポーツ活動に取り組んでいる個人や団体などのネットワークづくりに取り組むなど、市民の主体的な活動を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・津市体育協会において、専門部会として組織されているスポーツ指導者のボランティアによる指導者部会を立ち上げ、スポーツ指導者の育成を促進しました。
- ・指導部会への加入者を促進し、平成 21 年度までで 127 人となりました。

今後の取組

- ・今後は、指導者のボランティア組織によるスポーツ教室の開催などの活動を通じた市民の健康づくりをはじめ、教室の参加者による個人の交流や、関係団体との情報の共有を生かしたボランティアによるスポーツ活動の支援など、ネットワークを生かした市民の主体的な活動を促進します。

4 総合的なスポーツ施設の整備

(スポーツ文化振興部、総合支所)

前期基本計画における目標

- ・全市的に市民が広く利用でき、健康づくりや競技スポーツ、生涯スポーツ活動の拠点となるよう、スポーツ指導者・関係競技団体等の専門的な意見も参考にしつつ、県都にふさわしい総合的なスポーツ施設の整備に向けた取組を進めます。
- ・既存のスポーツ施設については、施設の機能を拡充するなど、市民のニーズに対応した施設整備に取り組みます

平成 21 年度までの取組実績

- ・総合的なスポーツ施設を整備するため、市民意識調査の実施や各地域審議会委員、体育館利用者等の意向を把握し、スポーツ施設全体の整備方針と新たな総合的な屋内スポーツ施設整備の基本的な方向性を示す、「津市スポーツ施設整備基本構想」の策定に向けた取組を行いました。

今後の取組

- ・スポーツ施設整備の基本構想を策定し、これを基に、新たな屋内スポーツ施設の整備基本計画を策定します。基本計画の策定後は、計画を基に用地取得、測量、設計等に着手します。

2 元気づくりプログラム

①住みやすさ向上プログラム

1 支え合いによる暮らしの安心づくり

(健康福祉部)

前期基本計画における目標

- ・地域社会における子育て支援や健康づくり、高齢者の生きがい対策、精神的孤立の防止などの社会問題に対して、ささえ愛ひろめ隊事業の推進を通じて、市民が相互に支えあえる仕組みづくりを行い、地域に元気を広めていきます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域における子育て支援や健康づくり、高齢者の生きがい対策、精神的孤立の防止などの社会問題を地域内あるいは地域間のネットワークを構築し、相互にささえあえる仕組みをつくることによって解決していこうという、ささえ愛ひろめ隊事業の趣旨を理解していただくとともに、活動の輪を広げていくため、健康ウォーキングの実施や、広報紙等を活用し、「ささえ愛ひろめ隊の紹介」、「元気人、元気グループの募集」、「マップづくりと料理コンテストの参加者募集」等を行いました。
- ・地域におけるネットワークづくりのため、ささえあい交流会を開催しました。
- ・食生活改善推進員をはじめ地域における福祉関係団体等と協働して、「安濃地区ささえ愛マップ 介護福祉版」、「ささえ愛マップ ヘルスボランティア版」を作成しました。

今後の取組

- ・地域における様々な人たちが相互に支え合える共助の仕組みの構築を推進するため、平成 21 年 12 月に策定した「津市地域福祉計画」の趣旨も踏まえ、活動者同士のネットワークづくりや、社会福祉協議会等の関係団体との協働に向けた調整を図っていきます。

2 市民主体の環境活動の推進

(環境部)

前期基本計画における目標

- ・市民の手によるエコ活動や情報発信などの拠点である市民エコ活動センターについて、市民との協働による運営を推進します。
- ・エコ講座の開催や地域におけるエコ活動リーダーの育成などを通じて、市民が自発的に環境活動に取り組める仕組みづくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・市民によるエコ活動や情報発信などの拠点である市民エコ活動センターを市民団体の「エコシティ津ネットワーク」が運営し、古布を利用した布ぞうりを作成するエコ講座を定期的で開催するとともに、古布や牛乳パックを利用した市民の手作り作品や地元産の野菜等を販売するフリーマーケットを開催しました。
- ・市民エコ活動センターのホームページの開設やパンフレットの配布を行い、情報発信拠点としての機能拡充を図りました。

今後の取組

- ・市民エコ活動センターの認知度をさらに高め、市民との協働による運営を推進し、市民の自発的な環境活動への取組を促進します。
- ・エコ活動リーダーとなる人材の発掘・育成などを通じて、市民が自発的に環境活動に取り組むための仕組みづくりを推進します。

3 地域の消防防災力の向上

(危機管理部、消防本部)

前期基本計画における目標

- ・地域における防災力向上のため、市民を対象に防災知識等の習得を目的とした津市民防災大学の活動等を通じて地域防災活動の活性化に努めるとともに、消防防災指導センターを設置するなど、地域の実践的な消防防災力の向上の仕組みづくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・平成 20 年 4 月、美里庁舎内に消防防災指導センターを設置し、市民の皆さんが実施する消防及び防災に関する訓練について、平成 20 年度は 200 回以上（指導対象人数 15,000 人以上）、平成 21 年度は 400 回以上（指導対象人数 32,000 人以上）の指導を行いました。
- ・訓練内容では、消火訓練（全体の約 19%）、AED 訓練（全体の約 15%）、心肺蘇生法（全体の約 15%）が上位となっており、救急救命に関する意識の高まりに応えた事業内容となりました。
- ・地域住民等により企画・運営される「津市民防災大学」において、防災に関する講義や演習・実習等の体験型学習を実施したところ、平成 20 度は 38 人、平成 21 年度は 32 人が受講し、受講生に対して行ったアンケートで、大変有意義であったとの回答を多く得ることができるなど、効率的かつ効果的に事業を実施できました。
- ・市民防災大学事業のあり方について、実行委員会において、危機管理等についても講座を追加する方向で協議を行うとともに、修了生の参画を図るなど、より適切な事業実施に取り組みました。

今後の取組

- ・引き続き、市民等が実施する消防及び防災に関する訓練等に対する指導を行うことで、市民の消防及び防災に関する知識、技術の習得と消防及び防災意識の向上を促進します。
- ・市民防災大学の開講を通じて地域における防災リーダーを育成し、防災意識・防災力のさらなる向上を図ります。

②元気な人づくりプログラム

1 地域連携センターの設置と地域貢献の推進

(三重短期大学、教育委員会、健康福祉部、商工観光部、市民課ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 三重短期大学において、地域連携センターを設置し、地域のシンクタンクとしての機能充実を図るとともに、市内の各地域において、生涯学習の一環として高等教育が受けられる機会の提供に取り組みます。
- ・ 市内に立地する大学や地域と連携して、市民の健康づくりに不可欠である食育や子育てをはじめ、地域医療、環境問題などの健康都市教育に取り組みます。
- ・ 生涯学習に対する市民ニーズが多様化・高度化する中、それに的確に対応するため、一般教養講座から、専門ゼミナールまで、多様な生涯学習機会を提供していくなど、元気な津市づくりを担う人材育成に取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 平成 20 年 4 月、三重短期大学に地域連携センターを設置し、地域連携事業に積極的取り組みました。
- ・ 生涯学習機会の提供については、「健康都市を目指して」をテーマに「食」と「健康」を考える講座など大学の特性を活かした講座を平成 20 年度は 6 講座、平成 21 年度は 13 講座開設しました。
- ・ 産学連携・高大連携については、それぞれの連携協定に基づき、学生を対象にした小論文コンクールや、ゼミ・講義を高校生が体験する大学見学会などを開催しました。
- ・ 市政との連携では、超高齢化地域の集落再生に関するテーマなどを設定し、教員と職員が共に調査研究する政策研修を実施しました。この研修には三重県や近隣都市からの参加も得られました。
- ・ 市内の大学間連携に向けた仕組みづくりについては、文部科学省の支援メニューである「戦略的大学連携 G P」を活用（同 G P へ申請したが不採択となった）するなど、市内 4 大学で協議を進めました。

今後の取組

- ・ 今後も引き続き、地域連携講座等の開催通じた生涯学習機会の提供や産学連携、市政との連携に努めるとともに、新たに高大連携協定を締結した県立津商業高校との高大連携事業にも取り組みます。
- ・ 市内の大学間連携については、学部や学科、コース間での連携を重ねながら連携の仕組みづくりを進めます。

2 地域の学びづくりの拠点づくり

(教育委員会、三重短期大学、商工観光部、市民部)

前期基本計画における目標

- ・学校を地域の学びの拠点として位置付け、地域における人材の育成や、地域の活力を生み出す取組を進めます。
- ・美杉地区や美里地区、芸濃地区を中心に、保幼小中連携を進め、地域の子どもたちの生きる力、とりわけコミュニケーション能力の育成をめざした教育の充実を図ります。
- ・社会人講座等の開催などによる地域の教育力の向上や、学校教育への地域の特色や地域の専門家等の人材の活用など生涯学習分野と連携した「共育」の仕組みづくりに取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・学校間交流による合同学習や異校種間交流を図るとともに、地域の人材を活用した英語活動を充実させることで、子どもたちのコミュニケーションの育成を図りました。
- ・学校図書館協力員を配置し、学校図書館の整備・地域開放・公共図書館との連携を図りながら、図書館教育の充実を図りました。
- ・地域の人々に学習支援ボランティアとして参画していただき、地域の人々と子どもたちとの交流等を行いました。
- ・保護者・地域の人々の学ぶ機会を創出するため、芸濃地区において社会人講演会を実施しました。

今後の取組

- ・取組地域の拡大、取組の促進及び充実を図り、一貫した教育を行う学校づくりを推進するとともに、学校と地域が連携して「共育」していく教育システムの構築をめざします。

3 津市げんき大学の活動促進

(市民部)

前期基本計画における目標

- ・市民主導による講座の開設や、気軽に参加できるイベントの開催など、広く市民に親しんでもらえる場の提供に取り組みます。
- ・講座の受講を通じて、地域資源の発見や市民同士の交流促進につなげていきます。
- ・津市を元気にしようという想いの人が集まった「津市げんき大学」の活動を通じて、地域で活動するボランティアを育成するなど、まちづくりの担い手の育成や協働の展開など市民が自らの手で取り組める仕組みづくりを支援します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・津市げんき大学において、「た津じんトークライブ&たまり場交流サロン」や「た津じんインタビュー」を通じ、地域で活動する団体等とのネットワークを構築しました。
- ・「シティプロモーション講座」を開催し、津市をテーマにした映像作品の制作を行うことで、津の魅力を再発見し、シティプロモーションの意識の向上に努めました。
- ・「うなぎプロジェクト」や「津ぎょうざプロジェクト」を推進し、津市への誘客・津市の活性化につながる活動を実施しました。

今後の取組

- ・これまで実施してきた事業をより充実させ継続していくとともに、新規参加者の獲得、新しい事業の展開に取り組んでいきます。また、津市げんき大学の活動を通じてまちづくりの担い手を育成できるよう、市民が自らの手で取り組める仕組みづくりを支援します。

③若者定住プログラム

1 魅力のある産業の育成と雇用の場づくり

(商工観光部)

前期基本計画における目標

- ・三重県産業支援センターや三重県科学技術振興センター等関係機関との連携のもと、産業振興センターを設置し、企業間や産学官の活動の場として利活用を促すとともに、広域連携を踏まえた本区域の中核施設として活用を図ります。
- ・企業や大学等研究機関の研究者が集い、企業ニーズと大学等の研究シーズとのマッチングの仕組みづくりに取り組むとともに、研究者等の人材育成の場として、産業振興センター内に大学等研究成果活用プラザ（仮称）を設置します。
- ・国立大学法人三重大学キャンパス・インキュベータや三重県産業支援センター等関係機関との連携のもと、研究開発型産業基盤の整備などを通じ、ベンチャー等新産業の創出と支援に取り組めます。
- ・企業立地の促進にあたっては、「津地域産業活性化基本計画」に指定する業種を誘致対象の中心として、本市の優位性のPR、他地域との差別化、きめ細かい立地サポートなど戦略的に取り組めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・魅力のある産業の育成と雇用の場の形成に向けて、中勢北部サイエンスシティ内「あのつピア」を本市の産業振興拠点に位置付けるとともに、総合的な産業支援を行う、産業振興センターを設置しました。
- ・三重県とともに本市が進める「メカトロ技術を活用した関連産業」の集積・形成を促進するための「メカトロ技術活用による地域イノベーション創出戦略調査」を実施しました。
- ・あのつピアにおいて、三重県と連携した「生産性向上セミナー」や、「メカトロセミナー」を開催し、メカトロ技術の紹介及び参加者同士の技術交流・意見交換などを行いました。また、人材育成を目的とした「組込みソフトウェア及びメカトロ技術者育成講座」や「製造管理者育成講座」を開催しました。
- ・企業訪問による企業情報の収集や企業情報検索システムの構築のほか、補助金やセミナー等による市内企業の研究開発並びに人材育成・確保の支援、起業家等の育成支援、地域資源や知的財産の活用を推進しました。
- ・中勢北部サイエンスシティについては、企業訪問や、企業展への出展などの展開により、総合計画における分譲目標において、約 80% の分譲・賃貸率を達成することができました。

今後の取組

- ・ 今後も継続した取組を重ねていくとともに、三重県・関係機関・大学・研究機関などと連携し産業振興センターの機能強化を図り、同センターを拠点とした中小企業等の育成支援に取り組みます。
- ・ 今後も引き続き、三重県、金融機関及び各種事業者との情報交換・収集に努めるとともに、本社機能が集中する首都・中京・関西の 3 大都市圏を中心に、積極的な企業誘致活動を継続していきます。

2 子育てをしやすい環境づくり

(健康福祉部、総務部、教育委員会ほか)

前期基本計画における目標

- ・「津地区次世代育成支援行動計画（計画期間 平成 17 ～ 21 年度）」のもと、母子保健、児童福祉、学校教育など各施策分野において、妊娠・出産及び子育て、子育て環境の整備や子ども、家庭の自立支援等、総合的な子育て支援施策の展開を図ります。
- ・本市の広大な市域において、どの地域においても子育て支援サービスを同様に選択し利用できるよう、ICT（情報通信技術）を利活用した子育て支援システムの構築に取り組むなど、子育てをしやすい環境づくりを整え、若者の定住を促進します。
- ・ささえ愛ひろめ隊事業の推進のもと、子育てをしている人・グループなどのネットワークづくりに取り組み、お互いの活動内容を共有するなかで、相互に子育てを支えあえる仕組みづくりに取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・未来を担う子どもたちの健やかな成長と子育てしやすい環境づくりのために、「津地区次世代育成支援行動計画」に基づき、発達支援、虐待予防、教育支援訪問事業など、子どもの成長に応じた途切れのない子育て支援に取り組みました。
- ・子育て支援システムについては、三重大学との共同研究等により、携帯コミュニティシステムの開発、既存システムの機能向上などを民間との協働で進めました。
- ・自立型運営モデルの構築に向け、構想等についての協議を行いました。

今後の取組

- ・平成 21 年度に策定した津市次世代育成支援行動計画に基づき、子どもの権利を尊重した子育て・子育て支援など、途切れのない支援の一層の充実を図ります。

④交流による活力創造プログラム

1 まち歩きシステムの整備

(健康福祉部、商工観光部、スポーツ文化振興部ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 点在する観光資源を結ぶループバスの運行を図るとともに、周辺地域の特性を活かした「まち歩きシステム」の整備に取り組みます。
- ・ 古い町並み保全などの景観整備を促進するとともに、歴史街道等を活用した観光ルートづくりに取り組みます。
- ・ 近年の多様な観光ニーズに対応するため、各地域の持つ豊かな資源を活かした体験型観光プログラムの創出や健康をテーマにした森林セラピー基地の整備などを行います。
- ・ 中心市街地と各地域との交流・連携を図るとともに、中心市街地の歴史文化資源を有効に活用したウォーキングを継続的に実施するなど、中心市街地でのまち歩きシステムを構築し、歩いて回遊・滞留できる環境をつくり、街や個店の魅力再発見と集客を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ まち歩きシステムの整備については、市内各地点において計 13 か所のまち歩きコースを設定するとともに、それらを結合するループバスを運行する「津らくらくフェスタ事業」を実施しました。
- ・ 1 年目、2 年目は美杉、白山、一志、久居など津南方面、3 年目は美里、安濃、芸濃など津北西方面でループバスを運行し、延べ 8,639 人の利用者がありました。
- ・ 一身田寺内町内の道路のカラー舗装、ガードパイプ等の修景整備、交差点改良整備及び環濠導水整備等を実施し、周辺景観と調和した環境整備を進めました。
- ・ 地域かがやきプログラムにより、森林セラピーコースとして、君ヶ野ダム湖畔コース、高束山コース、霧山コース、三多気蔵王コース、三多気大洞山コース、大洞山石畳コース、日神西浦コース、平倉コースの 8 つを設定しました。各コースに案内看板、ベンチ、休憩施設等を整備したほか、コース内の公共施設等各拠点施設に血圧計などの健康チェック機器を設置しました。
- ・ 中心市街地にある名所・旧跡等を巡ることにより、街なかに賑わいを創出するとともに、参加者がまちとその歴史に興味や愛着を持つきっかけをつくることなどを目的として、津のまん中ウォークを開催しました。

今後の取組

- ・ 本事業での成果を活かし、ループバスを「市内観光地巡回バス事業」として実施することとし、新たなまち歩きシステムの設定を通じて、まちの魅力再発見と集客アップをめざします。

- ・ 中心市街地における他のイベントとも連携し、津のまん中ウォークを行い、相乗効果を図ります。

2 観光サービスの充実と広域連携の強化

(商工観光部)

前期基本計画における目標

- ・市民と観光客が心温まる交流が促進されるよう「おもてなしの心」の醸成に努め市民との協働による仕組みづくりに取り組みます。
- ・観光ボランティアガイドの育成を図り、きめの細かい観光サービスの提供に努めます。
- ・フィルムコミッションや郷土芸能団体などの観光に関連するボランティア団体、NPO法人の育成・支援を図るとともに、これら市民団体等との協働による観光振興に取り組みます。
- ・三重県や近隣都市及び三重県観光連盟との連携を強化し、広域ネットワーク化を図り、魅力ある広域での観光ルートの設定などに取り組みます。
- ・まち歩きシステムの整備、協働・連携による観光の振興に加え、様々な場面を捉え、交流人口 100 万人の創出をめざした取り組みを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・本市の観光のあるべき姿、進むべき方向性を示す「津市観光振興ビジョン」を策定しました。
- ・観光ボランティア団体を当初の 4 地域 7 団体から、平成 21 年度までに、新たに 2 地域 2 団体の立ち上げを支援し、「おもてなし研修会」の開催等を通じてボランティアガイドの育成に取り組みました。
- ・津フィルムコミッション「ロケッ津」と連携し、映画等の撮影の誘致活動を行い、海外ドラマのロケに対する協力・支援を行いました。
- ・伊勢市と共同で観光パンフレットを作成するなど観光PR事業を展開し、新聞・雑誌・テレビ等多くのメディアに取り上げられ、津市の観光をPRしました。
- ・平成 21 年度には 4 団体のコンベンションの開催を支援し、1,623 人の市内への宿泊を実現しました。

今後の取組

- ・既設のボランティア団体の活動を支援するとともに、新たな地域においてもボランティアガイド団体を立ち上げ、ボランティアガイド組織の相互連携や技術向上のための研修等に取り組みます。

3 交流人口 100 万人の創出をめざした取組

(1) 観光レクリエーション入込客の増加

(商工観光部、スポーツ文化振興部ほか)

前期基本計画における目標

- ・既存の祭りなどのイベントをより一層充実させるとともに、地域に根ざした新たな事業等の推進に取り組むなど地域の魅力向上に努め、交流人口の増加を図ります。
- ・県都としての都市機能や交通結節点としての優位性を活かし、全国的・広域的なコンベンションやウォーキング大会の誘致や開催に向けた取組を推進するなど、交流人口の拡大に努めます。
- ・新たな観光客の獲得に向けて、旅行会社、交通会社等と連携し、温泉地、ゴルフ場などを活用した観光ルートの設定や市内観光地を周遊する観光タクシーなどの商品化づくりを支援していきます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・津まつりや久居まつり、津花火大会など各種イベントを開催し、他の観光拠点と合わせて平成 20 年に約 391 万人、平成 21 年には約 396 万人の入込客数となりました。
- ・平成 21 年度には 4 団体のコンベンションの開催を支援し、1,623 人の市内への宿泊を実現しました。
- ・榊原温泉周辺と美杉地域において、観光旅行ルート開発と商品化に向け、各地域の特性や課題、今後可能な取組について調査研究を行いました。
- ・津市観光協会及び市内タクシー事業者との協働により、観光タクシーの商品化を支援し、事業化に結びつきました。
- ・森林セラピー基地事業や二地域居住等推進事業を農山漁村活性化プロジェクト交付金により促進し、新たな交流施策としての地域資源を活用したヘルスツーリズムの確立による交流人口拡大のための基盤づくりを実施しました。

今後の取組

- ・今後も多くの来場者が得られるよう、工夫を重ねながら交流人口の増加に取り組んでいきます。
- ・引き続き、南部エリアを中心とした森林をはじめとする自然環境などの地域資源を活用した健康、観光拠点の確立をめざし、交流人口の拡大に努めます。

(2) 拠点の形成を通じた新たな交流の創出

(スポーツ文化振興部、政策財務部、都市計画部、商工観光部ほか)

前期基本計画における目標

- ・津なぎさまち及びその周辺については、県都の玄関口として、新たな交流と活力を創造する賑わいの創出を図るため、みなとまちづくりの推進に努めます。
- ・都市核の中心を担う津城跡（お城公園）及びその周辺地区については、藤堂高虎公入府 400 年を契機として、これを活用したまちづくりを進めるなど、多様な交流の拠点として、魅力的な都市空間の創造を図ります。
- ・久居駅東側周辺地区については、本市南部の玄関口としての駅前の利便性を活かし、民間活力の導入も視野に入れつつ、賑わい性を高めるための副次的な都市機能の整備を図ります。
- ・近畿自動車道伊勢線津インターチェンジ周辺地区においては、県都としての活性化を牽引し、本市の求心力をさらに高める観点から、中心市街地の活性化に寄与し、津なぎさまちを中心とするみなとまちづくりと連動した新都心軸の形成を図るため、本市の玄関口として圏域内外との交流を展開する新たな産業交流拠点機能の形成をめざします。
- ・本市における産業を牽引する拠点である中勢北部サイエンスシティ、ニューファクトリーひさいについては、広域的な産業連携を図りつつ、企業立地をさらに促進することにより、産業を通じた交流人口の創出を図ります。
- ・豊かな自然環境などを活かした、保養、レクリエーションの機能の拠点である、榊原温泉、青山高原、経ヶ峰、錫杖湖周辺、君ヶ野ダム周辺、御殿場海岸、香良洲海岸等については、周辺環境の整備や四季折々の景観が楽しめるイベントの開催などを通じて、多くの人々が訪れる拠点としての魅力の向上を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・津なぎさまちと、中心市街地（津城跡及びその周辺地区）、津インター周辺地区の 3 つを新都心軸と位置付け、その形成について必要な調査研究業務である「新都心軸拠点導入機能等調査研究業務」を実施するなかで、検討を進めました。
- ・みなとまちづくりの機運を高めるため、津なぎさまちを会場に、市民との協働によるサマーナイトフェスタや、クリスマスイベント、さらには、シンポジウム等を開催しました。
- ・藤堂高虎公入府 400 年記念事業として、記念講演会や 400 人茶会、市民薪能、街道ウォークなど計 65 事業を開催し、延べ 95 万人の参加がありました。
- ・藤堂高虎公啓発事業として、高虎公を顕彰する各ボランティア団体との案内所の設置に向けた協議をはじめ、周遊コースづくり・情報交換などを目的とした勉強会・講演会を実施しました。

- ・ 藤堂高虎公ゆかりの地において隔年で開催される「高虎サミット in 津」を、平成 20 年 11 月 4 日に津市内で開催し、ゆかりの地との交流による魅力的で個性豊かなまちづくりについての取組紹介や意見交換などを行いました。
- ・ 平成 20 年度に案内所「シロモチくんの館」を開設し、藤堂高虎公及び津城に関する情報を発信するほか、関連イベント等と連携し 2,365 人の来館者が訪れました。
- ・ 久居駅周辺地区については、民間の事業ノウハウと企画力で、実現性の高い事業を実施できるよう、民間資金活用型事業プロポーザル方式により、久居駅東側周辺地区整備事業の民間事業推進者を募集し、優先交渉権者を決定しました。
- ・ 平成 22 年 2 月に市民を対象とした久居駅東側周辺地区整備事業説明会を開催しました。
- ・ 久居駅東側周辺地区の整備に際しては、国有地と市有地の交換が必要となることから、交換のための測量業務及び鑑定評価を実施しました。
- ・ 中勢北部サイエンスシティ及びニューファクトリーひさいについては、積極的な企業誘致活動を行い、平成 20 年度には中勢北部サイエンスシティに 3 社の立地を実現しました。
- ・ 多種多様な自然環境が存在する津市の特性を活かし、健康増進及びスポーツ・レクリエーションの機能を取り入れた「経ヶ峰ハイキング」や「龍王桜マラソン大会」の開催や「森林セラピーコースの君ヶ野湖畔ダムコース」の設定、海のレクリエーションを体験できる「ビーチバレー in 御殿場」、香良洲海岸周辺での「ふれあいのかおり」、地域の農産物を取り上げた榊原温泉での「秋の収穫祭」などを開催し、各拠点の魅力向上に努めました。

今後の取組

- ・ 各拠点におけるそれぞれの取組について、より一層の推進に努めます。
- ・ 新都心軸の形成に向けて、新都心軸連携計画及び各拠点地区基本計画を策定します。計画策定後は、同計画に基づき、新都心軸の具体化に取り組んでいきます。
- ・ 津市まん中交流館やシロモチくんの館の PR を継続するとともに、利用者のさらなる拡大を図ることにより、中心市街地の集客及び活性化を図っていきます。
- ・ 久居駅東側周辺地区整備事業については、事業推進に向け、基本協定を締結するとともに、防衛省等との用地交換に向けた協議を実施します。
- ・ ワークショップや説明会により、市民の意見を伺いながら、具体的な事業内容を決定していきます。
- ・ 今後も引き続き、三重県、金融機関及び各種事業者との情報交換・収集に努めるとともに、本社機能が集中する首都・中京・関西の 3 大都市圏を中心に、積極的な企業誘致活動を継続していきます。

⑤津らしさ実感プログラム

1 藤堂高虎公入府 400 年を契機とした文化のまちづくり

(スポーツ文化振興部、政策財務部、市民部、商工観光部、三重短期大学、建設部)

前期基本計画における目標

- ・ 藤堂高虎公入府 400 年を契機として、藤堂高虎公にゆかりのある自治体との交流や、藤堂藩ゆかりの地への碑の設置など、藤堂高虎公の功績を広く地域内・外の人に知ってもらうための取組を継続的に進めるとともに、「まち歩き」との連携を図るなど、本市への誘客を図るための仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 藤堂藩ゆかりの地であった千歳山については、歴史的な経過を踏まえ、文化的、環境的側面等を活かした市民の憩いの場となるようその保全と活用を図るとともに、市民の創作活動や体験を通じて身近に文化に触れることのできる場として検討を行い、施設の整備に取り組みます。
- ・ 大学や関係する地方自治体、団体などと連携し、本市を中心とする広域的なエリアを対象に、一体的な文化環境の醸成や、歴史文化ネットワークの形成をめざす仕組みづくりとして、地域学の構築に向けた取組を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 藤堂高虎公入府 400 年記念事業として、記念講演会や 400 人茶会、市民薪能、街道ウォークなど計 65 事業を開催し、延べ 95 万人の参加がありました。
- ・ 藤堂高虎公啓発事業として、高虎公を顕彰する各ボランティア団体と案内所の設置に向けた協議をはじめ、周遊コースづくり・情報交換などを目的とした勉強会・講演会を実施しました。
- ・ 平成 20 年 11 月 4 日に藤堂高虎公ゆかりの地の関係者が集まり「高虎サミット in 津」を開催し、ゆかりの地との交流による魅力的で個性豊かなまちづくりについての取組紹介や意見交換などを行いました。
- ・ 平成 20 年度に案内所「シロモチくんの館」を開設し、藤堂高虎公及び津城に関する情報を発信するほか、関連イベント等と連携し 2,365 人の来館者が訪れました。
- ・ 藤堂高虎公入府後の藤堂藩の功績やゆかりの地についての周知を図るため、市内の藤堂藩ゆかりの地にいしぶみを設置しました。
- ・ 市民との協働により千歳山の整備に向けた基本構想を策定するため、津市千歳山を考える会を設置し、現地視察及び意見交換を通じ、整備の方向性や市民参加による管理のあり方等について検討を行いました。
- ・ 千歳山及び周辺地域において、樹木及び草刈り作業を実施し、周辺環境美化・保全管理に努めるとともに、基本構想策定作業に向けた環境調査において、千歳山における自然環境の現状を把握し、公園設計にあたり参考となる基礎資料の作成をや市民活動

に活用するための、自然環境の見所や自然観察スポットなどの情報の把握を行いました。

今後の取組

- ・ 今後も、藤堂高虎公の功績を通じた本市の情報発信に努めるとともに、藤堂高虎公ゆかりの地との交流拡大を図ります。
- ・ また、津城の復元やNHK大河ドラマの誘致に向けて、市民団体等との連携を図りながら取り組んでいきます。
- ・ 「シロモチくんの館」などによるPRを継続するとともに、利用者のさらなる拡大を図ることにより、中心市街地の集客及び活性化を図っていきます。
- ・ 千歳山の活用については、津市千歳山を考える会から整備の方向性に関する意見をいただくとともに、整備に係る基本構想の策定に取り組むほか、維持管理における市民参加の手法について検討を行っていきます。

2 地域ブランドの確立

(商工観光部、農林水産部)

前期基本計画における目標

- ・国・県が行う支援策、専門家等を活用しながら、多様な自然環境に恵まれた地域資源等を活用した新商品の開発を促進するとともに、数多く有する観光資源との連携のもと、観光振興と一体となった地域ブランドの確立に向けた仕組みづくりに努めます。
- ・地場産業等とのマッチングに努め、地域と一体となった商品や付加価値の高い新製品の開発を促進しながら、本市のイメージの形成に資する地域ブランド戦略を推進します。
- ・農林水産物等の付加価値を高めるため、住民や関係者等と協働した地域特産物の認定、またグリーンツーリズムや物づくり体験など体験プログラムの創出に努めるとともに、特色のある物産品や地産地消の取り組みと連動した「特産品」、「郷土料理」の開発を支援していきます。
- ・旅行会社、交通会社等と連携し、温泉地、ゴルフ場などを活用した観光ルートの設定や市内観光地を周遊する観光タクシーなどの商品化づくりを支援していきます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域ブランドの確立に向け、津市農林水産物等ブランド化推進協議会を設立し、ブランド化推進品目候補の選定等に向けた検討を行いました。
- ・地域かがやきプログラムの新産業創出事業として実施する美杉地域新食材育成活性化推進協議会におけるオオイチョウダケ等の新たな食材の研究・開発や水産物の高付加価値化を支援しました。
- ・「食彩フェスタ in つ」を開催し、広い市域で作られている豊富で良質な「津の食」の良さをPRし、また、新たな味覚の掘り起こしと情報発信等により「食」による地域振興を行うとともに、地産地消や食育の推進などにも取り組みました。
- ・津市観光協会及び市内タクシー事業者との協働により、観光タクシーの商品化を支援し、事業化に結びつきました。
- ・観光商品開発基礎調査を行い、榊原地域を中心とした観光ルートの設定に係る基本的な方向性について検討しました。

今後の取組

- ・引き続き、津の食の普及啓発、生産者と消費者との交流を通じた地産地消およびブランド戦略を進めます。

3 シティプロモーションの仕組みづくり

(商工観光部、農林水産部)

前期基本計画における目標

- ・ 県都としての都市機能や交通結節点としての優位性を活かし全国的・広域的なコンベンションの誘致、また地域資源を活かしたフィルムコミッションなどを積極的に推進します。
- ・ 全国的に著名な文化人等の協力を得ながら、新聞、雑誌、テレビなどのメディアを効果的に活用したPRに取り組みます。
- ・ 既知の観光資源のみならず、本市発祥の名産品や食文化など、本市の特色的な観光資源を活用しつつ、インターネットやイベント等を通じた積極的なPR活動を行うとともに、行政、民間企業を含めた市民一人ひとりが全国に情報発信できる取組を進めます。
- ・ 東京事務所などの機能を活かした広域的な観光情報の発信を行うとともに、伊勢市など他都市と連携をした観光キャンペーンなどの事業を展開し、観光地としての知名度向上に努めます。農林水産品の産直所の設置などにより情報発信・PRの強化に努め、販路拡大を図ります。また、国道 23 号中勢バイパス津（河芸）工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、産直所や情報発信機能等の整備を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 平成 21 年度には 4 団体のコンベンションの開催を支援し、1,623 人の市内への宿泊を実現しました。
- ・ 津フィルムコミッション「ロケッ津」と連携し、映画等の撮影の誘致活動を行い、海外ドラマのロケに対する協力・支援を行いました。
- ・ 新聞・雑誌・テレビ等のメディアを活用した情報発信を行うとともに、東京・大阪メディア交流会等にも参加し、津市の観光PRに努めました。
- ・ 各分野で活躍されている津市にゆかりのある方々 8 人を「津ふるさと元気大使」として任命し、津市のPRが効果的に行われるよう体制作りを進めました。
- ・ 「津の街音楽祭」を開催し、音楽ファンの若者を中心に賑やかさを創出するとともに、インターネットを活用し、イベントの全国発信に加え、市民ブログによる津市の魅力の発信を行いました。
- ・ 伊勢市と共同で観光パンフレットを作製するなどの観光PR事業を展開し、新聞・雑誌・テレビ等多くのメディアに取り上げられ、津市の観光をPRしました。
- ・ 道の駅の整備促進については、平成 21 年度に道の駅の用地購入に係る不動産鑑定評価業務を実施するとともに、運営準備会を設置し、農林水産業団体及び商工団体と検討・協議を行い、翌年度以降の取組計画を具体化しました。

今後の取組

- ・ 近隣各都市との連携を図りながら、広域的な情報発信に取り組んでいきます。
- ・ 道の駅については、平成 25 年度の開設に向けて、取組計画に基づく着実な推進に努めます。

3 地域かがやきプログラム

①東部エリア～キラリと輝く人づくり・まちづくり～

1 知の拠点としての情報発信

(1) 研究情報ハブの形成

(政策財務部、商工観光部ほか)

前期基本計画における目標

- ・大学等研究機関や企業との連携のもと、産業振興センター（仮称）において、メカトロニクスやバイオをキーワードとした先端的研究やそれらの融合領域に関わるナレッジ・ハブ（知識中継点）を整備していくことで、特色ある「知」の情報拠点となる研究情報ハブの形成をめざします。

(2) 文化情報ハブの形成

(政策財務部、スポーツ文化振興部ほか)

前期基本計画における目標

- ・市民や関係機関との連携のもと、「県都」としての文化情報の蓄積を行政情報システムにより整備していくことで、洗練された文化情報ハブの形成をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・三重県とともに本市が進める「メカトロ技術を活用した関連産業」の集積・形成を促進するための「メカトロ技術活用による地域イノベーション創出戦略調査」を実施しました。
- ・企業訪問による企業情報の収集や企業情報検索システムの構築のほか、補助金やセミナー等による市内企業の研究開発並びに人材育成・確保の支援、起業家等の育成支援、地域資源や知的財産の活用を推進しました。
- ・文化的活動を動的な文化情報としてとらえ、各種文化団体の協力のもと、文化団体や活動内容の情報を定期的に収集し、市内の文化活動を把握することのできる体制づくりに努めました。

今後の取組

- ・今後も産官学連携を基軸に、メカトロ関連技術・情報の集積及び発信ができる基盤づくりを進めます。
- ・今後は、文化的活動の促進と合わせて、より多様な文化情報の収集を図ります。

(3) 国内・国際会議の開催

(政策財務部、商工観光部ほか)

前期基本計画における目標

- ・メカトロニクスやバイオをキーワードとして、大学等研究機関や企業との連携のもと、三重県総合文化センター等を会場とし、これら先端的研究の国内・国外会議の開催をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・あのつピアにおいて、三重県と連携した「生産性向上セミナー」や「メカトロセミナー」を開催し、メカトロ技術の紹介および参加者同士の技術交流・意見交換などを行いました。また、人材育成を目的とした「組込みソフトウェア及びメカトロ技術者育成講座」や「製造管理者育成講座」を開催しました。

今後の取組

- ・三重県、関係機関、大学、研究機関などと連携し、あのつピアを中心とした会場において、各種セミナー等を開催し、産業振興に関する情報交換・情報発信ができる場づくりを進めます。

(4) 地域ブランドの情報発信

(政策財務部、農林水産部、商工観光部、河芸総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・本市のイメージ形成に資する特産品や農林水産物などの地域ブランドをホームページや携帯電話などの情報媒体を積極的に活用し、一体的かつ総合的な情報発信を図ります。
- ・国道 23 号中勢バイパス津（河芸）工区に予定されている道の駅の整備促進にあわせて、地域情報発信拠点及び農林水産物等の流通促進施設として、「道の駅」拠点づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域のブランド情報を発信かつ販売できるインターネットサイト「津 e ネットショップ」のシステムづくりを進めました。
- ・平成 21 年度に「道の駅」の用地購入に係る不動産鑑定評価業務を行いました。また、国・県の関係機関と調整・協議を行うとともに、道の駅の運営について検討する運営準備会を設置し、農林水産業団体及び商工団体と検討・協議を行い、翌年度以降の取組計画を具体化することができました。

今後の取組

- ・地域ブランド商品を販売するインターネットサイト「津 e ネットショップ」の平成 22 年度開設をめざすとともに、津のブログポータルサイト「津のこと」と連携し、商品購入者のレビューを設け、消費者の目線でのネットショップの構築を進めます。
- ・平成 25 年度の「道の駅」開設をめざし、基本計画の策定、関係機関・団体との協議・調整を行います。

(5) 市民参加による旬の地域情報発信

(政策財務部ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 四季折々の景観など、旬の地域情報を情報発信するため、市民地域特派員（仮称）を設置するなど、市民参加型情報発信の仕組みづくりを推進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 四季折々の景観など、旬の地域情報を発信するために、市民特派員がパソコンを活用して地域の情報を書き込み、地域の情報をタイムリーに発信することができるポータルサイト「津のこと」を開設しました。なお、システム制作では、一般的なブログポータルサイトの制作費・運営費の 10 分の 1 の予算で作り上げ、なおかつ成果を出す必要があることから、前例のない取組として、「既存のブログの更新情報を読み込み集約する」システムとしました。
- ・ 市民特派員については、平成 22 年 3 月 31 日現在で、年度目標の 200 人を超える 203 人の登録を得ることができました。

今後の取組

- ・ 情報発信の核となる市民特派員の確保について、継続して啓発に努めていきます。また、「津 e ネットショップ」事業と連携した取組については、現在、システムの開発段階であり、今後、連携の構築を進めます。

2 地域を担う人づくり

(1) 多様な人材の育成

(教育委員会、教委久居事務所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 公民館を中心とした社会教育施設や、津センターパレス、河芸庁舎、ポルタひさい、サンデルタ香良洲などの公共施設を活用し、市内及び近隣の大学と連携した生涯学習講座や、各分野において専門的な知識を有する市民による講座等の開設により、地域社会における問題解決や支え合いの仕組みを担う多様な人材の育成を図るとともに、施設の有効活用を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 「地域リーダー養成塾」については、広報紙などによる募集案内を行い、平成 21 年度の「基礎入門編」に計 30 人の応募がありました。9 月 26 日に開塾式及び第 1 回目の講義をスタートし、平成 22 年 2 月 6 日までの計 10 回の講義を実施しました。全講義終了後、平成 21 年度受講生を対象に郵送方式でアンケート調査を行い、時間、回数、テーマ等についての意見を聞き取りました。
- ・ 「津市民大学あかつアカデミー」については、社会の変化や地域のニーズに合せた講座を実施しました。
- ・ 「雑学人づくり塾」については、久居地域の各地区公民館を拠点として地域の歴史や観光資源、各種分野の講座を開催し、知識の習得を進めました。平成 21 年度は、各地区公民館での講座を 61 回、全体研修会を 1 回開催し、受講生 435 人、延べ 1,553 人の参加がありました。

今後の取組

- ・ 「地域リーダー養成塾」については、アンケート調査の結果をもとに、平成 22 年度の「応用実践編」の運営に取り組みます。
- ・ 「津市民大学あかつアカデミー」、「雑学人づくり塾」については、地域のニーズや社会の変化にあわせ、内容の充実を図るとともに、受講生に人材育成や人材活用を意識してもらえよう講座づくりを行い、受講生が地域で活躍できるモデル例が少しでも作れるよう取り組みます。

(2) スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくり

(スポーツ文化振興部、建設部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・市民の誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催など、市民の参加及び交流の場を提供することで、スポーツやレクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしづくりを応援します。
- ・河芸町民の森公園内及びサンデルタ香良洲周辺における施設の整備・充実に取り組むとともに、市民が気軽に利用できるよう市民ニーズに応じた各種スポーツ・レクリエーション活動の促進を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・河芸地域において、マレットゴルフ教室&大会を平成 21 年 11 月 29 日に開催し、初心者を含む 73 人の方に参加いただくことができ、競技人口の拡大に貢献することができました。
- ・河芸地域において、ソフトボール教室を平成 21 年 12 月 6 日に開催し、小中学生の児童・生徒 7 チーム 100 人が参加し、全国的にも有名な鈴鹿国際大学の田中大鉄先生を講師に招き、基礎技術の向上や地域内の親睦を図ることができました。
- ・香良洲地域において、パターゴルフ大会を平成 21 年 7 月 5 日・平成 22 年 3 月 14 日・平成 22 年 3 月 15～18 日の 3 回開催し、延べ 150 人が参加しました。地域にあるパターゴルフ場を利用し、生涯スポーツの振興、健康づくりに貢献することができました。
- ・香良洲地域体育祭を平成 21 年 10 月 18 日、香良洲小学校運動場で開催しました。地域主導のイベントとして行っており、約 900 人の参加があり、地域の生涯スポーツの振興及び住民相互の親睦を深めることができました。
- ・久居地域では、「サマーフェスティンひさい」、「久居まつり」を開催し、市民の参加と交流の場づくりを行うことで、レクリエーションを通じた心豊かで生きがいのある暮らしづくりを応援しました。

今後の取組

- ・各教室については、参加者をはじめ指導者にも好評であったため、今後も別の種目で、子どもたちの可能性を引き出していけるよう取り組みます。
- ・引き続き、誰もが参加しやすい各種スポーツ・レクリエーション活動を推進し、心豊かで生きがいのある暮らしづくりを進めます。

(3) 多文化共生の地域づくり

(教育委員会、市民部、教委河芸事務所)

前期基本計画における目標

- ・国際化が進むなか、本市の人口の約 3.1%を占める外国籍市民との交流を推進します。
- ・文化や習慣等の異なる人たちが、互いの違いを認め合い、共に共生できる地域社会を形成していくため、相互交流イベントなどを通じて、国際理解のある地域づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・外国人児童及び保護者への支援事業については、就学前後・不就学の外国籍児童及び保護者が学校生活になじめるような取組として、平成 21 年 5 月から翌年 3 月までに、外国人支援コーディネーター活動（ポルトガル語）を 43 回、日本語指導補助活動（日本語）を 31 回実施しました。
- ・指導者の育成・研修事業については、平成 21 年 8 月 4 日に、河芸中央公民館でトロント大学の中島和子教授をお招きし、「外国につながる子どもたちの心とことばー母語保持の重要性ー」と題した講演会を開催しました。
- ・地域住民との交流事業については、千里ヶ丘小学校で平成 21 年 11 月 21 日に「わのつどい」を、平成 22 年 2 月 3 日には「ちさトーク」を開催しました。

今後の取組

- ・多文化共生の地域づくりモデルとして、引き続き河芸地域において文化や慣習等の異なる外国人の方々と地域住民の共生に向けた取組を進めます。

3 地域連携による交流の推進

(1) 鉄道で巡るおもてなしルートの設定

(久居総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 鉄道網の持つ魅力を活かし、津駅、久居駅等を基点に、四季折々の景観を求めての散策や歴史文化を探訪できるルートの設定、また、ちょっと一休みできる味どころなど「おもてなし旅情報」の発信で、地域再発見・交流に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 津駅、久居駅等を基点としたルート設定については、久居駅周辺等の散策マップや久居商店連盟作成のまちあるきガイド等が作成されていることから、まずは、これら既存マップ等を活用し、周知に努めました。
- ・ 交流促進の観点から、地域のイベントである「サマーフェスティンひさい」や「久居まつり」を支援することで、一層の交流促進を図りました。

今後の取組

- ・ 地域連携による交流を推進するため、ボランティアガイド等と協力して地域の再発見を行い、既存のマップとは視点を変えた新たなルートの設定や環境整備を模索していきます。

(2) 伝統文化の伝承と賑わいの創造

(教育委員会、教委香良洲事務所、教委河芸事務所)

前期基本計画における目標

- ・古くから各地域に受け継がれ、県の無形民俗文化財に指定されている「唐人踊」や「香良洲町の宮踊」など長い歴史と伝統に培われた伝統行事を活かした賑わいの空間の創出と、地域を支える人づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・唐人踊は、毎年津まつりや郷土芸能フェスタ等に出演し、地域の賑わいの創出に寄与したほか、平成 21 年には県域でテレビ放送されるなど活躍の幅を広げました。
- ・宮踊りは、豊漁豊作を祈願する奉納踊りで 350 年くらい前から行われており、踊りの歌本は歴史を素材にした郷土色豊かなものです。平成 21 年は、8 月 15 日夜から 16 日朝にかけて行われ、天候にも恵まれて、延べ 5,000 人程度の人出があり、市民の他、県外からも多数の方が訪れました。
- ・平成 22 年の元旦及び 2 日に、馬場区全世帯及び区民会館で獅子舞（門舞等）の行事を開催しました。年末には、後継者育成として地区の中学生及び高校生にも笛等の指導を行いました。

今後の取組

- ・今後も、地域の賑わい創出の推進に加え、積極的な情報発信および後継者の育成を支援していきます。

(3) 海を活かした交流の推進

(環境部、商工観光部、農林水産部、河芸総合支所、香良洲総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・河芸地域から香良洲地域まで連なる市域で唯一の「海」を活かし、地域が連携した環境保全活動などによる安らぎを与える空間づくりに努めます。
- ・潮干狩り、たて干し、地引網など観光漁業を企画推進し、海の魅力を提供します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・香良洲地域は、海に面していることから海を「交流の場」としてきました。平成 21 年 5 月 24 日行われた「ふれあいのかおり」には、地域住民はもちろんのこと、市内外から、約 3,000 人がふれあいのテーマのもと、さまざまな交流を行いました。来場者全員による海岸清掃を実施したほか、潮干狩りコーナーを設け「海のまち」ならではの体験をしていただき、海を取り巻く環境保全や観光漁業の推進に寄与しました。

今後の取組

- ・今後も、より多くの参加者に海の魅力を PR できるよう、情報発信に努めながら事業を推進していきます。

(4) ユニバーサルデザインのモデル地域づくり

(政策財務部、香良洲総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ユニバーサルデザインの取組が活発である香良洲地域において、サンデルタ香良洲を拠点に、市民との協働のもと、ユニバーサルデザインマップの作成や、小中学校、企業などを対象にした研修講座等を開催します。
- ・市民及び地域の自主的な活動団体等との連携のもと、ユニバーサルデザイン推進のモデル地区としての取組を進めるとともに、他の地域への取組の浸透及び自主的な活動団体等とのネットワーク構築を支援します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ユニバーサルデザインのモデル地域づくりとして、啓発推進のための備品の購入（テルミー（活字文書読み上げ装置）、バリエントール（色弱模擬フィルタ）、高齢者疑似体験セット）をはじめ、ユニバーサルデザインのまちづくり啓発用看板作成、掲示用パネルの作成（12 枚）を行いました。
- ・講演会や、学校・企業・地域で車いす、高齢者、アイマスク、妊婦などの疑似体験ができる講座（年間 28 回）の開催をはじめ、ボランティア連絡協議会や他団体が行う事業に協力してユニバーサルデザインの普及啓発を図りました。

今後の取組

- ・今後も、地域住民、団体との協働で、ユニバーサルデザインの事業推進を図ります。

(5) 歴史文化の賑わいの創出

(スポーツ文化振興部、教育委員会、商工観光部ほか)

前期基本計画における目標

- ・一身田寺内町の環濠や町並みなど歴史的景観をはじめ、地域の文化を感じさせる景観や風情などを発掘・活用など、市民がまちづくりに参加できる体制づくりを進めることで、賑わいや訪れる人への思いやり、もてなしを創出します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・「一身田寺内町ガイドマップ」を 7,000 部、また、昭和初期に高田本山周辺で撮影された映画のロケ地を案内した「一身田寺内町シネマップ」を 2,000 部印刷し、一身田寺内町の館において来館者に提供するほか、観光ボランティアガイドによるガイド時やウォーキングイベント時にも配布し、観光拠点としての魅力向上に努めました。
- ・一身田寺内町観光振興懇話会を開催し、地域住民が主体となった環濠清掃・浄化活動などのまちづくり活動を支援しました。
- ・歴史景観や文化遺産の活用を図るための観光勉強会として、奈良県今井町での先進地研修を開催し、39 人が参加しました。
- ・一身田寺内町のまちづくりについての勉強会をワークショップ形式で 4 回開催しました。

今後の取組

- ・引き続き、観光ボランティアガイドとの連携や、まち歩きなどを通じた観光客誘致に取り組めます。

②北部エリア～都市や自然と共存するふれあいの里づくり～

1 スポーツ・レクリエーション活動の促進

(1) スポーツ・レクリエーション拠点の形成

(スポーツ文化振興部、安濃総合支所)

前期基本計画における目標

- ・安濃中央総合公園及びその周辺において、より大規模なスポーツ大会が開催できるよう、スポーツ施設の整備・充実に取り組むとともに、スポーツ・レクリエーションを通じた交流の拡大を図ることで市民のスポーツ活動を促進し、市内のスポーツ人口を増やします。
- ・芝生広場周辺における花いっぱい運動等の取り組みを通じて、公園周辺の環境整備を図り、市民の憩いの場を創出します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・「津市スポーツ施設整備基本構想」の検討過程において、安濃中央総合公園及びその周辺についての整備の方向性を示すための取組を行いました。
- ・あのうスポーツクラブと連携し、各種スポーツ大会及び教室の開催により身近にスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みました。
- ・安濃中央総合公園周辺の環境整備及び市民の憩いの場を創出するための取組として、関係機関、ボーイスカウト等の協力を得て、ベゴニア、パンジーの展示やハナミズキの植栽を実施しました。

今後の取組

- ・今後も継続して、市民に親しまれるスポーツ・レクリエーションの環境づくりを推進します。

(2) 自然・歴史散策コースの整備

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 錫杖湖周辺の自然や石山観音、長野城跡、伊勢別街道等の歴史資源を活かしウォーキングコースの整備や構築を進め、健康増進や市民間交流を目的としたウォーキングイベント等の開催などを通じて、レクリエーション活動の促進を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 石山観音公園において、石仏の番号案内表示板（33 か所のうち文字が剥落した 21 か所）を設置するとともに、公園全体の案内看板（5 枚）を修理したことで、石仏の保存状態を把握することができ、観光客の利便性も向上しました。また、「馬の背」に関する案内看板 1 基を新たに設置しました。
- ・ 長野峠周辺において、長野トンネル（昭和のトンネル）、長野隧道（明治のトンネル）、江戸時代の長野峠を結ぶウォーキングコースを設定し、コース全体の案内板 1 基及び道順案内板 4 基を設置しました。
- ・ 平成 20 年 4 月 13 日、平成 21 年 4 月 11 日に「龍王桜マラソン大会」を開催し、参加者が自然を体感しながら、マラソンを楽しみました。
- ・ 平成 20 年 9 月 28 日、平成 21 年 11 月 8 日に伊勢別街道をコースとした街道ウォークを開催し、延べ 500 人以上が参加しました。
- ・ 平成 21 年 12 月 12 日に「錫杖ヶ岳ハイキング」を開催し、参加者の健康増進と市民交流の活性化に寄与しました。

今後の取組

- ・ 今後は、整備された石山観音を含めたウォーキングコースの設定やイベント等の開催により、更なるレクリエーション活動の促進を図ります。

2 地域産業振興の拠点づくり

(1) 新たな観光交流の創出

(芸濃総合支所、美里総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・地産地消施設である美里フラワービレッジの機能拡充を支援し、イベントや芋掘り、山菜取り等の農業体験ツアー等との連携、特産品レストランの開設、来訪客への観光情報の提供などを通じて、集客の拡大や地元農産物の販売を促進します。
- ・地域が主体となって観光モデルコースを創設するなど、新たな観光交流の創出に取り組みます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・景観整備事業として、平成 21 年 4 月 30 日から 8 月 14 日まで、地産地消施設周辺の土地にヒマワリを植栽したほか、施設を経由するウォーキングコースマップを作成しました。
- ・北部エリア（安濃、芸濃、美里）の観光資源を巡る、6 つのモデルコースを創設し、この 6 つのモデルコース、ドライブマップ、行事カレンダーから構成する、「津市北部エリア・見においしい！観光モデルコース」パンフレットを、20,000 部作成し、配布するとともに、その内容を、ホームページに掲載しました。

今後の取組

- ・今後は、作成したパンフレットやホームページ等を活用し観光客の集客を促進し、あわせて地産地消施設における地元農産物の販売を促進します。

3 自然と親しむ環境づくり

(1) 経ヶ峰の自然がはぐくむ交流と健康づくり

(安濃総合支所)

前期基本計画における目標

- ・地域の財産である経ヶ峰の豊かな自然や周辺の史跡を活かし、ハイキングや森林浴などを通じて市民の交流と健康増進を図るとともに、経ヶ峰を通して森林保全に対する市民意識の醸成を促進します。
- ・ハイキングに歴史的資源や温泉（安濃交流会館内）を組み合わせ、新たなハイキングコースを設定することで、さらなる市民の交流と憩いの場としての魅力の向上を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・経ヶ峰ハイキングを実施し、平成 20 年度は 112 人、平成 21 年度は 140 人が参加しました。また、ハイキング参加者に平成 20 年度、21 年度合わせて 100 本の広葉樹（ヤマザクラ、コナラ、シバグリ、ヤマモミジ、ブナ）の植樹をしていただき、身近な自然に親しむとともに自然景観の保護及び環境保全に対する意識を醸成することができました。
- ・「経ヶ峰ハイキングと周辺散策マップ」を作成し、PR に努めました。

今後の取組

- ・今後も、周辺の観光資源等もあわせた散策コースの設定などを通じ、周辺地域を含めた PR に努めます。

(2) 美里水源の森の整備

(美里総合支所、水道局)

前期基本計画における目標

- ・水源かん養林等を活かしたセラピーロードを設定し、癒しの場となる水源の森の整備を進めます。体力や体調などに合わせて選べる複数のセラピーロードを設け、歩道、階段、橋などを整備し、憩いの空間の創出を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・癒しの場として親しまれる自然公園のあり方について、地元自治会長、地域住民の意見の聞き取りを行いました。

今後の取組

- ・今後も引き続き、癒しの場として親しまれる自然公園のあり方について検討を行います。

(3) 森と湖の環境整備

(芸濃総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・落合の郷、ふれあい公園、錫杖ヶ岳、錫杖湖畔キャンプ場などがある錫杖湖周辺を「森と湖の自然公園」と捉え、来訪者が手軽に自然を感じられるような環境整備に努め、地域の魅力を高め、集客を拡大することで地域の活性化を促進します。

平成 21 年度までの取組実績

- ・落合の郷内の河川の除草作業を行ったことで、河川内で遊べる環境をつくることができ、小学生たちのキャンプなどで利用され好評を得ました。
- ・落合の郷の駐車場整備を行ったことで、来訪者がスムーズに駐車できるようになり、来訪者の利便性を向上することができました。
- ・落合の郷への案内看板の設置や、周辺の観光案内看板を設置し、河内周辺の観光PRに努めました。
- ・落合の郷内に自然プールを整備し、湖畔に紅葉樹（イロハモミジ）18本の植樹を行いました。

今後の取組

- ・今後も周辺の環境整備を行い、地域の魅力を高め、情報発信を含めた集客拡大に取り組みます。

③中部エリア～“みのり”と“ぬくもり”の郷(さと)づくり～

1 温泉リフレッシュゾーンの魅力アップ

(1) 温泉利用客誘致への魅力アップ

(商工観光部、久居総合支所、一志総合支所、白山総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 榊原温泉、猪の倉温泉、とことめの里一志などのエリア内の温泉資源を有効に活用するとともに、周辺環境整備や情報発信を強化し、温泉利用客の拡大を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 「温泉と四季の花ふれあいの里事業」については、平成 21 年度は天候不順もあり、コスモス、ひまわりの開花時期が短かったものの、プランターを利用した景観づくりは、1 年を通じ、温泉客、住民へのイメージアップとして定着しました。
- ・ 榊原温泉への主要アクセス道路沿いで「花街道景観整備事業」、「湯の瀬フラワーガーデン整備事業」を行うことで、美しい農村景観づくりを推進し、来訪者の目を楽しませました。
- ・ 「湯の瀬フラワーガーデン整備事業」の一環として、自治会等で鯉のぼりの寄贈を呼び掛け、平成 20 年春から「鯉吹かし」を始めました。
- ・ 平成 20 年 11 月 16 日、平成 21 年 10 月 25 日に「白山ふれあいフェスタ」を開催し、温泉施設とタイアップしたふれあい交流の場づくりを進めました。

今後の取組

- ・ 今後も周辺環境整備や情報発信を強化し、さらなる温泉利用客の拡大をめざします。

(2) 温泉でつなぐふれあいルートの設定

(スポーツ文化振興部、白山総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ エリアを横断する初瀬街道と並行して走る鉄道の最寄り駅を発着に、猪の倉温泉や、とことめの里一志のほか、歴史、文化資源を組み入れたウォーキングルートを設定します。
- ・ 榊原温泉では、散策ルートのほか車利用を視野に入れた広域的なルートや環境学習をテーマにしたルート設定など、多彩な情報発信に努めます。
- ・ 温泉利用客誘致イベントと連携した複合的なルート活用に努めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 市民の意見を踏まえ、「初瀬街道周辺観て歩きマップ」10,000部と「榊原温泉発ふるさと新発見ルートマップ」20,000部を作成し、市施設のほか市内外の観光施設等に備え付けるとともに、初瀬街道周辺11箇所に記念スタンプを設置し、中部エリアの魅力をPRしました。
- ・ 平成21年度には、初瀬街道垣内宿にスポットを当て、屋号を染め抜いたのれんを作製し、18軒に掲出することで街道沿いのイメージアップを図りました。
- ・ 平成22年3月には、地域活動振興事業のスポレク事業を「初瀬街道垣内宿ウォーキング大会」として実施し、掲出したのれんを活用した集客イベントを行いました。
- ・ 「ひさい榊原温泉マラソン大会」は、平成21年度から開催時期を2月から11月に変えたため、例年に比べて参加者は減少したものの、マラソンを通じ、市民の健康維持・増進と親睦を図るとともに、榊原温泉の振興と風力発電のまちを他地域にPRすることができました。

今後の取組

- ・ 今後もマップを活用し、「初瀬街道周辺ウォーキング大会」の実施など街道のイメージアップにつなげるとともに、さらに地域の魅力をPRするための方法等を模索しながら魅力ある地域づくりをめざします。

2 食のブランド化

(1) 地産地消の促進

(農林水産部、久居総合支所、一志総合支所、白山総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・新鮮で安心な地元農産物の直売所の拡大を図り、消費者と生産者の信頼関係を構築するとともに、消費者に信頼される生産者グループを組織化して生産拡大や販売促進を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・子どもたちの農林水産業や地産地消に対する理解を深めることを目的として、一志地域を対象に「地産地消子どもの元気づくり事業」を実施しました。
- ・「榊原温泉ふれあい朝市」については、平成 22 年度から既存事業に工夫を加え、取組を始められるよう地元と協議を行いました。

今後の取組

- ・「地産地消子どもの元気づくり事業」については、参加募集を強化し、一層、農林水産業や地産地消に対する理解を深めることができるよう努めます。また、「榊原温泉ふれあい朝市」については、組織の充実を図り、定期的な朝市の開催をめざします。

(2) 特産品づくりの推進

(一志総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 地元の食材を利用した料理の開発、広く消費者にPRする食のイベントの開催などを通じて、地域の農産物・特産品の浸透を図り、食のブランドの確立をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 榊原地域で栽培している古代米の収穫時期にあわせ、榊原の自然や地元農産物をPRする「榊原温泉 秋の収穫祭」を開催しました。
- ・ 平成 20 年度から収穫祭の一環として、会場周辺で「かかしコンテスト」を始めました。地域の自然にマッチした“かかし展示”は人気が高く、地域資源を活かしたPRができました。また、収穫祭後には、イベント当日の様子や榊原の自然などをテーマとした写真コンテストを開催するなど息の長い地域振興活動をめざして工夫しました。

今後の取組

- ・ 今後も古代米を活用した特産品づくりを進めるとともに「食」だけに限定せず、幅広く地域資源を活かした特産品づくりを進めていきます。

3 地域力の維持、再構築

(1) 地域の賑わい、ふれあい交流の場づくり

(白山総合支所、一志総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・空き家など現在使われていない住宅、公民館など既存の公共的施設を活用し、親近感のある気軽な抛りどころの設置を促し、人材確保、地域づくり活動への展開を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域の賑わい、ふれあい交流の場づくりとして、平成 20 年 11 月 9 日、平成 21 年 11 月 8 日に、「一志ふれあいまつり」を開催しました。一志中央公民館を会場に、地域住民が主体となり特産品の販売やステージイベント等を行い、地産地消の推進及び地域住民の交流を図り、延べ約 16,000 人の来場者がありました。
- ・地域を訪れる人たちに地域の歴史、文化などをより深く知っていただくため、既存のボランティアガイドの活動や新たな団体の設立を支援しました。平成 21 年度には、白山地域で新たに団体が設立し、活動を開始しました。

今後の取組

- ・今後も地域づくり活動の輪が広がるよう、地域住民を主体とした活動を支援し、人づくりを進め、地域住民の情報交換の場や、地域を訪れる人たちが気軽に立ち寄れる場づくりを進めていきます。

(2) 隠れた資源の再利用

(久居総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・耕作放棄地、使われなくなった自然素材や生活の知恵、流通に乗りにくい手づくり品など隠れた資源の新たな活用策を見出し、地域力の再構築をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・雲出川沿いの桜の名所として知られる「大仰の桜並木」は、除草、河川清掃、桜並木の維持管理等を行い、地域の誇れる観光スポットにすべく環境整備に取り組みました。

今後の取組

- ・今後も継続して河川周辺の環境整備に取り組みます。また桜並木の中には老木となったものもあるので、対策について検討を進めます。

④南部エリア～健康で暮らせる自然と歴史の地域づくり～

1 健康で元気な人づくり

(1) 連帯意識に根ざした心豊かなコミュニティの形成

(美杉総合支所、教委美杉事務所)

前期基本計画における目標

- ・過疎化・高齢化が進行するなか、集落を維持する観点からも、高齢者の豊かな経験と知識の活用、地域団体やボランティアとの連携など、地域内外における人材の活力を積極的に誘導しながら、人と人とのつながりを大切にしたい心豊かな地域コミュニティの形成をめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・地域住民が相互にコミュニケーションをとり、自ら考え、行動する機運づくりのため、平成 20 年度から、集落機能再生「きっかけづくり」推進事業を実施し、2 つの地区で集落再生協議会が設立され、3 つの地区で協議会設立に向けた実行計画が策定されました。

今後の取組

- ・残りの 2 地区を加えた当地域の 7 地区で、3 カ年計画により事業を実施していきます。今後も、各地区の協議会を基盤として、地域住民が連帯意識を持って地域の活性化に取り組めるよう支援していきます。

(2) 暮らしの安心づくり

(健康福祉部、美杉総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・健康増進施設等の整備と併せた老朽化が進む美杉庁舎の建替えをはじめ、森林セラピー事業との連携を図りながら、竹原診療所の有効活用を促進するとともに、三重県立一志病院など医療機関と連携し、住民の健康づくりを支援します。またコミュニティバスの円滑な運行をはじめ、過疎地域における利便性の向上を図るための輸送サービスの導入による、高齢者の外出支援の促進等を検討するなど暮らしの安心づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・三重県立一志病院との連携により、地域医療向上の取組が進められていることから、改めて一次医療懇談会を設置せず、同病院の取組と連携することにより効果的な住民の健康づくりを推進しました。
- ・過疎有償輸送や福祉有償輸送など超高齢過疎地域の高齢者を中心とした交通弱者のための末端部の輸送サービスとしての活用方法などについて、調査研究及び検討を実施しました。

今後の取組

- ・今後も継続して三重県立一志病院と連携の在り方について協議、検討を進めます。
- ・引き続き、末端部の輸送サービスとしての検討を進め、公共交通サービスの向上を図ります。

2 自然の恵みの価値創造

(1) 森林を活かしたヘルスツーリズムの推進

(健康福祉部、商工観光部、美杉総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・豊かな森林の恵みを活かし、森林セラピー基地（セラピーロードと宿泊施設等）を活用したヘルスツーリズムを積極的に展開し、健康に配慮したまち歩きシステムによる新しい観光商品の確立をめざすとともに、地域における看護実習の実施など、健康をテーマとした大学コミッション※（地域の中での大学の調査研究活動）の推進などにより、内外から訪れる人々の心の癒しと健康づくりをめざします。

平成 21 年度までの取組実績

- ・森林セラピーロード等のまち歩きガイドブックやパンフレットの作成及びガイダンス施設とロードの整備を実施したほか、森林セラピー基地モニターツアー及び森林セラピーフォーラムを開催しました。
- ・森林セラピーコースとして、君ヶ野ダム湖畔コース、高東山コース、霧山コース、三多気蔵王コース、三多気大洞山コース、大洞山石畳コース、日神西浦コース、平倉コースの 8 つを設定しました。各コースに案内看板、ベンチ、休憩施設等を整備したほか、コース内の公共施設等各拠点施設に血圧計などの健康チェック機器を設置しました。
- ・平成 21 年 10 月に、森林セラピー基地をグランドオープンしました。また、それに合わせ、セラピーコースを紹介・案内するパンフレットや地図を作製し、東京及び大阪のメディア向け観光展で配布し、PR を行いました。
- ・保健センターや三重県看護大学などとも連携したウォークイベントを開催し、癒し効果の測定を行い、データ収集を行うなど調査研究活動を進めました。

今後の取組

- ・「津市森林セラピー基地在り方懇話会」を発展的に地域主体の「津市森林セラピー基地運営協議会」へ移行し、森林セラピー基地の本格的な稼働を推進するとともに、ロードや拠点施設の整備及び PR 等の啓発事業を積極的に実施していきます。
- ・森林セラピー基地の新たなメニュー開発を行い、基地活用の促進による集客の拡大とこの効果による地域の活性化を図って行きます。
- ・引き続き、森林セラピー基地における健康・保健イベントを保健センターや各種関係団体との連携により実施し、これまでの検証結果と合わせた健康基地としての活用の促進を図ります。

(2) 自然を活用した産業の活性化

(農林水産部、商工観光部、環境部、美杉総合支所)

前期基本計画における目標

- ・バイオマス等を活用した地域循環型産業の拠点形成をめざし、バイオマスタウン構想の検討を行うとともに、ICTを活用したテレワーク（地方などオフィス以外の場所で働く労働形態）事業の具体化に向けた検討、特産品の生産・販売拡大を図るためのブランド化とこれを活用した集客交流、森林・河川・農地を利用した自然体験やオーナー制度の導入など、新たな産業の創出を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・特産品について、新食材の育成に係る取組としてオオイチョウダケ（通称：スギタケ）の自然栽培に係る研究と食材としてのPR事業を実施し、販売関係者からの問い合わせ等もありました。

今後の取組

- ・オオイチョウダケの安定した栽培と販路確保のための調査を実施し、引き続き、新たな事業に活用でき得る特産品づくりへの取り組みを進めます。
- ・空き家情報バンク制度と合わせた農地銀行制度の検討を行い、遊休農地の活用促進による環境保全をめざします。

(3) 豊かな自然環境の中での居住

(美杉総合支所ほか)

前期基本計画における目標

- ・ 空き地や遊休地を活用して都市住民が居住できる二地域居住を促進し、これを定住に結びつけていくため、田舎暮らし体験塾の開催や空き家情報バンクの整備などを推進し、豊かな自然の恵みを求めて居住できる環境整備を図ります。

平成 21 年度までの取組実績

- ・ 田舎暮らしを促進するため、そして、二地域居住の推進や空き家情報バンク制度の活発な運営のため、滞在型市民農園に業務を委託し、田舎暮らし体験塾を実施しました。
- ・ 空き家情報バンク制度の設置に係る先進地調査を実施し、農地法に係る課題は若干残ったものの一定の成果が得られ、設置要綱を設け、間接交渉物件に係る媒介協定を三重県宅地建物取引業協会と締結しました。リーフレットの作成も行い、大阪方面への PR 活動についても、予定した 2 回に加え、三重県から紹介された「ふるさと回帰フェア」へも参加し、目的に合致した方々への PR を実施しました。
- ・ 空き家情報バンク制度の稼働後には、145 人の利用登録と 24 棟の空き家登録があり、その中で、8 件の成約と 2 件のバンク外での成約があり、予想以上の成果となりました。

今後の取組

- ・ 更なる二地域居住の推進を図るため、引き続き、田舎暮らし体験塾を実施します。
- ・ 空き家情報バンク制度の一層の活性化を図るため、すでに移住された方々による居住アドバイザー制度を設置し、移住交流を促進します。
- ・ 空き家を活用した交流拠点施設を整備し、地域と一体となった交流促進を図ります。
- ・ 空き家登録件数を増加させるための空き家所有者への周知方法について、更なる研究検討を行うなど、問い合わせや成約が多い中、今後も引き続き、空き家登録件数を確保するための所有者への周知に取り組んでいきます。

3 歴史と文化の拠点の整備

(1) 歴史と文化の拠点整備

(教育委員会、教委美杉事務所)

前期基本計画における目標

- ・調査、研究の進む多気北畠氏城館跡を中心として、ふるさと資料館、道の駅周辺等との歴史、文化のネットワークづくりとともに、地域の伝統文化を活かしたイベントや講座を開催するなど、歴史と文化の拠点整備を進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・史跡である多気北畠氏城館跡を適切に保存管理していくために必要となる方針等を定める保存管理計画を策定しました。
- ・史跡多気北畠氏城館跡と一体となる「名勝北畠氏館跡庭園」の保存管理計画について、平成 23 年度中の策定を目指し、策定作業に着手しました。

今後の取組

- ・多気北畠氏城館跡保存計画に基づいた周辺整備や、文化財の保護・管理、伝統文化の継承の促進などを図り、歴史と文化が息づく地域づくりを進めます。

(2) 住民との協働による歴史・文化の保全・活用

(教育委員会、美杉総合支所、教委美杉事務所ほか)

前期基本計画における目標

- ・「歴史の道百選」にも選ばれた伊勢本街道の道標、家並みの保全・活用、有形・無形文化財の保護と史跡の管理、歴史・文化の伝承活動などを進めます。関係部局や三重県とも連携し、地域住民が主体となった歴史・文化が息づく地域づくりを進めます。

平成 21 年度までの取組実績

- ・伊勢本街道を活かした地域づくり協議会への委託事業により、街道整備をはじめとする地域の受け入れ態勢も整いつつあり、モニターツアーの開催、街道沿いののれんや屋号看板、案内板の設置を行い、地域住民と一体となった地域づくりを進めることができました。
- ・モニターツアーの開催により、モニタリング調査が完了し、今後のツアー計画が概ね作成できる状況になりました。
- ・平成 21 年度に三重県県土整備部景観まちづくり室により、県道嬉野美杉線がカラー舗装され、地域の歴史文化に即した景観づくりが促進されました。

今後の取組

- ・今後は、有料ツアーの誘致やボランティアガイドの育成、協議会主催事業の実施をめざすなど、地域が主体となったまちづくりに取り組みます。

